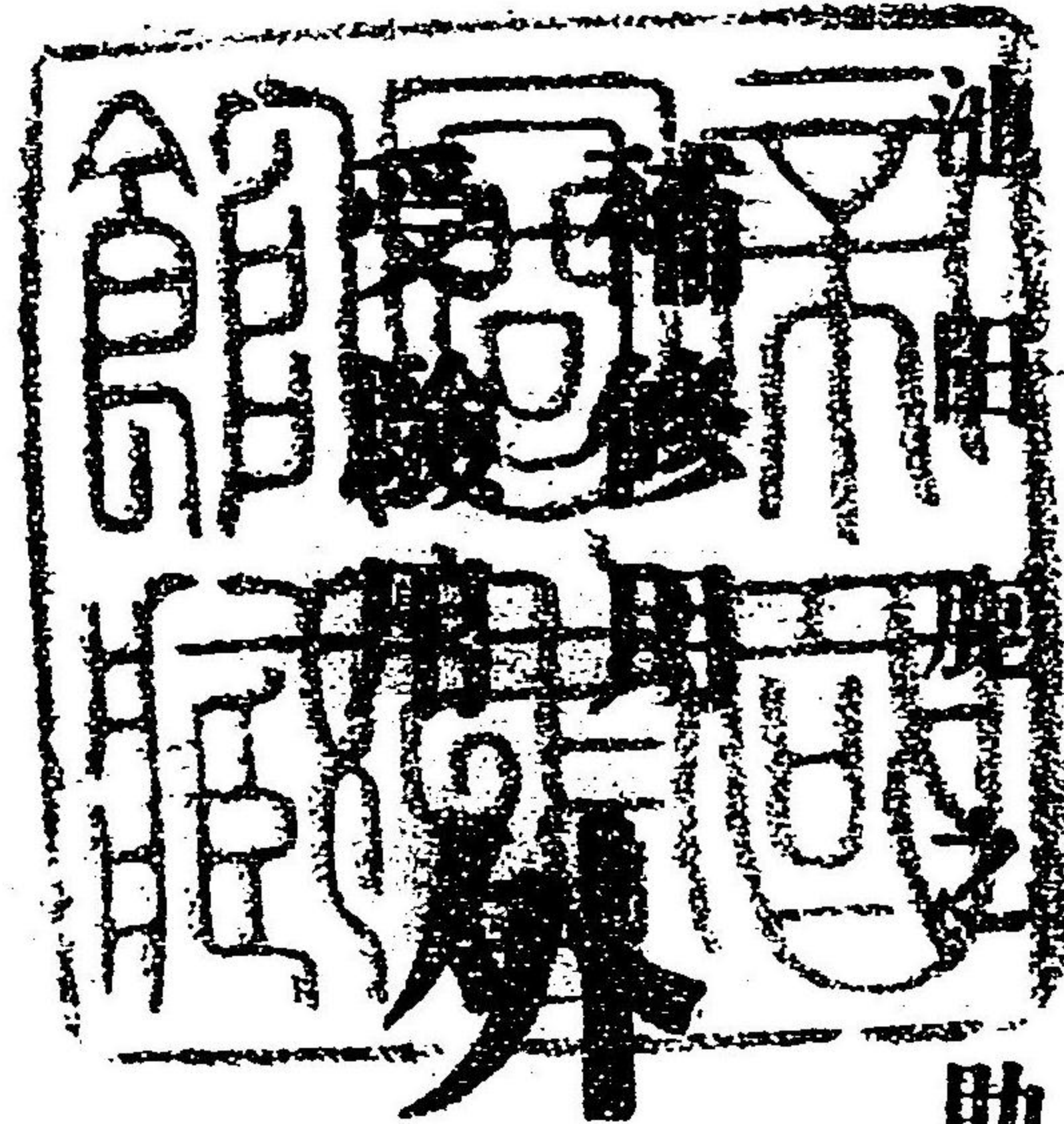


特20
253



助編

國地理

明治
40 3 14
内交

目次

第一 アジア洲

總論

一頁

韓國

九頁

清國

二十一頁

アジアロシア

三十三頁

アジアトルコ

三十六頁

イラン地方

三十七頁

インド

四十頁

インド支那半島

四十四頁

マライ群島

四十七頁

第二 大洋洲

第三 ヨーロッパ洲

總論

五十八頁

ロシア

六十二頁

スウェーデン、ノルウェー

六十四頁

デンマーク

六十五頁

ドイツ

六十六頁

オーストリア、ハンガリア

六十九頁

目次

一

目次

スウイス	七十一頁	フランス	七十四頁
ベルギー	七十六頁	オランダ	七十八頁
イギリス	八十頁	イスパニア	九十頁
ポルトガル	九十三頁	イタリヤ	九十四頁
バルカン半島諸國	九十九頁		
第四 アフリカ洲			
第五 北アメリカ洲			
總論	百十八頁	イギリス領北アメリカ	百二十二頁
アメリカ合衆國	百二十七頁	メキシコ	百三十四頁
中央アメリカ諸國	百三十四頁	西インド諸島	百三十四頁
第六 南アメリカ洲			

補修用 外國地理 受驗用

第一 アジア洲

アジア洲

位置

積面

(1) 陸統計表
第一參考

アジア洲は、東半球の東北部に位して、大部分は、温帯中に
あるが、南は、熱きインド洋から、北は、寒き北極洋にまで廣が
り、六大洲中、第一の大陸である、その面積は、大てい二百九十
萬方里で、殆ど、わが國の百倍に當つて居る。

本洲の地圖を展べて、海岸屈曲の工合を見ると、北極洋の
海岸には、さした出入はないが、大平洋面には、ペーリリシグ海、
オホーシグ海、日本海、渤海、黄海、東支那海、南支那海などの海

アジア洲總論

灣があり、インド洋面には、ベンガル灣、アラビア海などの灣入がある。

地勢

又、内地の地形を見ると、中央から、少し西に偏してゐる處に、多數の大山脈が集中して、土地が大變高まつてゐる處がある、

パミル臺地

この地方をパミル臺地とよび、地理學者は、また、この臺地を「世界の屋根」といつて居る、その土地の高さはといへば、低い處は、一萬尺から、高い處は一萬五千尺にまで及び、一帯を平均しても、わが國の富士山よりは、高いのである、富士山といへば、今も尙憶ひ起すが、先年、野中至といふ、篤學の士が、高山の氣象を觀測して、學界に益せんと志し、頂上にて冬越を試みたが、事ならず、中途から、憾を吞んで、下山したのである、されど、このパミル臺地には、勿論、地勢の工合や、氣候の加減

などが、遠ふからではあるが、矢張、あち、こちに、人間が、稀少ながらも、部落を造つて居るのである、わが國人では、今の、西本願寺の法主、大谷光瑞師が、曾て、ヨーロッパから、歸朝の途次に、この地方を、跋涉して、インドに出たのが、この地方、探險者の、始めである。

山系

パミル臺地から、四方に、分岐してゐる大山脈の、主なものは、東南にはヒマラヤ山脈、東には崑崙山脈、東北には天山山脈、西南には、ヒンヅークシ山脈がある、さて、これ等の中で、最も峻しいのは、ヒマラヤ山脈である、この山脈は、多少並行した、數條の山脈から出來て、弓なりに、延び亘り、その長さは、六百

ヒマラヤ山脈

世界第一の高地

二十五里、その幅は、西の方で廣く、七十五里から、九十里に跨り、山脈中には、世界第一の高峰とよばれてゐる、エベレストが、

エベレスト

二萬九千尺にも聳ゆるのみでなく、わが富士山よりは、恰も、二倍以上の高峰が、四十も時だつて居て、實に、世界有数の大山脈である。

世界第一の低地

アジアには、かく、世界第一の高地があると、同時に、また、世界第一の低地がある、それは、西南部の、アジアトルコのシリヤの地にある、死海といふ、鹹湖である、この湖は、小湖ではあるが、その水は、塩分が多くて、生物が、そこに生息することが、出来ぬ、また、その水面は、地中海のよりも、千三百尺の低面に窪んで居るのである。

水系

土地が廣いから、河も、また、長く、大いなるものがあるが、わけて北極洋に入る、オフ、レナ、イニセイの諸河流と、大平洋に注ぐアマール河(黒龍江)、黄河、揚子江、メコン河と、インド洋に流れ

揚子江

るサルウィン、ブラマプロタ、ガンガ、インドス等の諸河は、皆本洲の大河である、中にも揚子江は、その長さが、千七百里に亘つて、世界屈指の長流に數へられ、その上に、舟運の利にも、灌溉の便にも富んで居るから、その流域の一帶は、土地、肥えて、農業が盛んに行はれ、また、その沿岸には、數多の開港場があつて、清國の富源は、多く、この流域一帶から、得らるゝといつてもよいのである。

氣候

本洲の、南北兩部は、寒熱の二帯に跨がつて居るから、北部は、寒くて南部は、熱いことは、いふまでもないのであるが、その熱さ、寒さが、皆極端に走つて居る。北極洋の海岸は、ツンドラといつて、土地は一面に凍り、夏季には、一二尺の表面がどけて、沼澤となることがあるが、その餘は、常に、地下、數十尺の

深さまで氷結して居る、殊に、レナ河、下流地方の一部には、夏季には、華氏の寒暖計が、百度以上にも昇り、冬季には、氷点下百十七度に下つて、一年の平均温度が、氷点下三十度といふ世界中の最寒地がある、それと反対で、ペルシアあたりの地には、暑さが強く、空気は、常に乾燥して居るから、ぬれ手拭で、鼻や、口を掩はぬと、旅行に堪へぬといふ、世界中の最熱地もある、また、モンスーンといつて、六月から、九月に至る雨季には、西南風が連吹して、大雨を降らすから、インドには、世界の最多雨の地がある、而して、中央部から、西南部に亘る地は、海に遠く、ろの上に、山脈が、四方を圍んで居るから、寒暑の差が多く、降雨が稀であるから、不毛の砂漠地を作れる處もある。

世界の最熱地

世界の最多雨の地

砂漠地

は、西南風が連吹して、大雨を降らすから、インドには、世界の最多雨の地がある、而して、中央部から、西南部に亘る地は、海に遠く、ろの上に、山脈が、四方を圍んで居るから、寒暑の差が多く、降雨が稀であるから、不毛の砂漠地を作れる處もある。

天産物

植物

動物

礦産

住民

本洲には、天産物が、甚だ多い、植物にていへば、北部では、僅に、蘇苔類や、灌木などを生ずるのみであるが、南部では、椰子樹、甘蔗、チーク樹、紫檀、烏木などが多く、また、温暖地方には、米、茶、甘蔗、綿、麻、藍、阿片などの特産物が夥たしいのである。動物は、北部に馴鹿、白熊、白狐、貂などの毛皮獸が居り、南部に、獅子、虎、象、水牛類が居る、とりわけ、象や、水牛は、耕作用にも、また、運搬用にも使はれ、貴重な家畜として、取扱はれて居る、また、中部より、以南の地には、駱駝、馬、羚羊等も、多く産し、殊に、駱駝は、「砂漠の船」といはれて、大切な家畜である。礦産は、金、銀、銅、鉄、石炭、錫、諸寶石、及び石油までも、皆備はつて居るが、採掘が未だ、十分に、行き届いてない處がある。

住民の總數は、凡そ八億五千萬あつて、世界人口の半ば以

(1) 諸統計表
第一参考

上を有して居るが、土地の廣大なるによつて、これを、一方里の平均人口に直して見ると、僅に、三百人許に過ぎぬので、わが國のやうに、一方里の平均人口が、千九百人餘りに、割り當る國は、この大陸に、ないのである。

人種

住民の多數は、蒙古人種で、東部に大團を作り、西南部には、カウカシア人種が多い、また、東南海中の諸島に住んで居るものは、マライ人種が、主である。

宗教

世界の大宗教は、いづれも、この大陸から、起つたのであるから、種々の宗教が、行はれて居るが、最も、勢力のあるのは、佛教、インド教、マホメット教の三である、而して、その分布は、佛教は東部と、東南部に、インド教はインドに、マホメット教は、西部と、東南部とに、盛んに行はれて居る、また、キリスト教は、各地

邦制

に、行はれてはゐるが、その信者は、餘り、多くないのである。

本洲には、わが大日本帝國をはじめ、清、韓の二帝國、シヤム、ペルシアの二王國と、外に、二三の小酋長國とが、獨立の國をたて、居るけれども、わが國を除くの外は、多少外國の干涉や、保護を受け、さもなくば、海岸の要地を他國に、占領されて居るのである、また、爾餘の諸國は、大概、列強に分割され、北部はロシア、南部はイギリス、東南部はフランス、西部はトルコの勢力の下にある、この他、大陸の東南にある諸島は、多く、オランダ、アメリカ合衆國、イギリスなどの領地となつて居る。

韓國 (朝鮮)

面積 韓國の廣さは、わが國の半ばよりも小さく、人口は、この國

韓國

人口

に、まだ正確な統計がないから、分り兼ねるが、或は、六百萬ともいひ、或は、千二百萬ともいつて居るが、一千萬位が、正當に近いやうである、わが國人は、近時、非常に、その數を増し、釜山の如きは、一萬七千人に及び、街上、一人の韓人にも、會はぬことは、敢て、珍らしくない、仁川は、これについて、一萬四千人、京城、また、一萬人の多きに達し、駐屯して居る、三萬の兵士を除き、その數、七萬ばかりある。

わが國人

地勢

國內に、山てふ、山は、澤山あるが、北境にある白頭山と、南の濟州島の中に聳、いて居る、漢羅山(漢拏山)の二つが、最も高いのである、殊に漢羅山は、附近の海を航行する船舶が、航海の目標として、居るほど、目立つて居る、また、名山も、随分處々にあるが、江原道にある金剛山は、亂立して居る奇峯が、皆楓松を

金剛山

以て、蔽はれてゐるから、楓岳、又は、一萬二千峯といつて、韓人は、「この山を見ない以上は、韓國を知らぬ痴人である」といつて居るほどである。

河

河は、餘り、多くはないが、中にも、鴨綠江、圖們江、大同江、漢江、錦江、洛東江を、國の六大江といつて、皆五十里以上の長さで、とりわけ、鴨綠江は、わが國の信濃川と、同じ位で、一等の長江である。

氣候

氣候は、南部は、稍温和であるが、一般に、寒暑、共に強く、南部は、夏季、洋蠟が炎熱のためにとけ、北部は、冬季、酒類の凍る位である、されど、三寒四暖といつて、冬は、三日寒ければ、四日は暖く、夏、また、これと同じく、涼熱が、互にめぐり來る、天然の妙作用があつて、凌ぎかたき氣候に堪へしむるのである。

韓國

産物

産物は、わが國のと、大いな違ひはないが、農産では、人参が、特産物で、開城の産といへば、格別上等なのである、動物では、虎が多い、また、騾や、驢が居つて、馬の代りに、使用されて居る、鳥類では、鶴が大變、多いのである、水産物では、わが國の助藤鱈に似た明太魚といふのが、咸鏡道の海からとれる、この魚はわが國人か、恰も、鯛を賞味するやうに、韓人は、その乾物を貯藏して、皆祝祭日に、これを食べることになつて居る。

金

この國には、また、多くの金が出で、その年産價額は、わが國よりも、遙か、多い、金の種類は、岩金と、砂金とであつて、その割合は、岩金が、四で、砂金が六といふ有様である、採掘の多い鑛山は、平安道の雲山、順安、殷山、宜川、咸鏡道の端川、永興などが、殊に、著名である、今、五年間の、産金輸出價額を示すと、左の通

りである。

明治三十二年	二、九三三、三八一、 ^圓
同 三十三年	三、六三三、〇五〇、
同 三十四年	四、九九三、三五一、
同 三十五年	五、〇六四、一〇六、
同 三十六年	五、四五六、三九七、

以上の如く、輸出價額が、年々増加して居るが、さて、いづれの國へ、多く輸出するかといへば、實に左に示す如き有様で、その大部分は、わが國が吸入するのである。

明治三十二年	二、〇四九、四七七、 ^圓
同 三十三年	三、〇六五、三八〇、
同 三十四年	四、八五七、二〇一、

韓國

同 三十五年	六、〇〇四、三〇一、
同 三十六年	五、四五六、一八七、

貿易

外國貿易は、まだ、十分の發達をしない、輸出は、もとより、輸入の如きも、國民生活の程度が低くて、購買力が弱いから、人口に比較すると、割合に、少ない、貿易の、凡そ、百分の九十は、わが國との間に行はれて居るのである、而して、わが國へ輸出する價額よりも、わが國より輸入する方の價額が多い、結局貿易上からいふと、韓國は、わが國の、一華客である、貿易港は、仁川港を第一とし、釜山、元山、木浦、鎮南浦などが、それについて盛んなのである。

今、わが明治三十一年からこのかた、五年間の、平均の貿易額を擧ぐると、左の通りである。

輸出品價額

七、四六七、〇五〇、圓

輸入品價額

一二、三八六、八〇〇、圓

内 譯

輸出之部

輸入之部

金	三、七九九、九二三、 _圓	金	巾	一、五九七、六三〇、 _圓
米	三、一四〇、八一〇、	綿	織糸	一、〇五四、五四〇、
豆	類 一、八五八、三九〇、	絹	布	八一九、一一〇、
人	參 一、七七四、九五〇、	綿	布	七五四、〇五〇、
獸	皮 五三六、五二〇、	石	油	五五六、九一〇、
其	他	其	他	

政 体

この國は、君主專制の獨立國であるが、明治三十八年十一月の、日韓新協約で、韓國の外交權を、全く、わが國に收め、統監

府を置いて、韓國の外交、及び、その他、諸般の政務を統轄することとなつたのであるから、今は、名義上からいつても、實際上からいつても、純然たる、わが國の、保護國である、その新協約は左の通りである。

日韓新協約

日本國政府、及、韓國政府は、兩帝國を結合する、利害共通の主義を、鞏固ならしめむことを欲し、韓國の、富強の實を認むる時に至るまで、この目的を以て、左の條款を約定せり、

第一條 日本國政府は、在東京外務省に由り、今後、韓國の外國に對する關係、及び、事務を、監理指揮すべく、日本國の外交代表者、及び、領事は、外國に於ける、韓國の臣民、及び、利益を保護すべし。

第二條 日本國政府は、韓國と、他國との間に存在する、條約の實行を全うするの任に當り、韓國政府は、今後、日本國政府の仲介に由らせしめて、國際的、性質を有する、何等の條約、若は約束をなさないことを約す。

第三條 日本國政府は、その代表者として、韓國皇帝陛下の闕下に、一名の統監(レジデント、セネラル)を置く、統監は、専ら、外交に關する事項を管理するため、京城に駐在し、親しく、韓國皇帝陛下に内謁するの權利を有す、日本國政府は、又、韓國の、各開港場、及び、その他、日本國政府の必要と認むる地に、理事官(レジデント)を置くの權利を有す、理事官は、統監の指揮の下に、從來、在韓國、日本領事に屬したる、一切の職權を執行し、並に、本協約の條款を、完全に、實行するため、必要とすべき、一切の事務を掌理

すべし。

第四條 日本國と、韓國との間に、現存する條款及、約束は、本協約の條款と、牴觸せざる限、總て、効力を繼續するものとす。

第五條 日本國政府は、韓國皇室の安寧と、尊嚴を維持することを保證す。

軍 備

この國には、軍備といふものは、殆ど、認められぬのである、るれ故に、陸軍は、わが國から、派遣されてる、二箇師團の隊兵が、内地を守備し、また、海軍も、わが國の軍艦が、要所、要所を巡航して、沿海の警衛をして居るのである。

宗 教 教 育

この國の、教育や、宗教は、誠に幼稚であるから、國民に、無學の輩が多く、また、皆迷信が深く、不時の災難に遇ふと、路傍の

一里塚に行つて、石をつみ上げ、著物のきれ端を、くゝりつけて、祈禱をこらすなどの風習が、今も、尙、行はれて居るのである。

交 通

交通の機關も、また、これまで、全く、不備であつたが、明治三十八年四月の、日韓條約で、郵便、電信、電話の事業を、わが國に委任して、管理せしむることゝなつてから、郵便は、大概の處に、局や、出張所や、取次所が出来、電信は、到る處に、通せるやうになつたのである、鐵道も、これまで、なかつたのであるが、わが國人の手で、京城から、釜山に至る、二百七十八哩の、京釜鐵道が、日露戰爭中に出来、また、軍事上の目的から、經營せられた、京城、義州間の二百九十六哩の、京義鐵道が、同戰爭中に、全部開通し、京釜の支線に、馬山から、三浪津に至る馬山線(二

京釜鐵道
京義鐵道

十五哩)と、京城、仁川間の京仁線とがあり、京義線の支線に、兼二浦から、黃州に至るものが出來て居る、とに角、京釜、京義の二線は、韓國を縦貫して居るのであるから、頗る重要なものである、主義も、定見もなく、國家の安危を度外に置いて居る韓國政府、猜忌力に富んで、輕躁で、怒りやすき韓國民、午睡、喫烟、雜談などに、貴重なる、時間の大部分を、空費する朝鮮人も、全く、わが天皇陛下の御稜威と、わが國政府の、手厚き誘導とによつて、漸次、文明の國、開化の民とならうとするのである。

京釜鐵道は、わが、東京を起点として、釜山から、京城に向ふのを、下り列車、その反對を、上り列車といふのである、東京から、下り列車は、五十一時間、釜山から、十二時間餘で、京城に達することが出來、又下關、釜山間の、車輪の連絡は、現時、壹岐丸、

對馬丸の二隻が、毎日、定期に、發着することゝなり、また、九州との連絡は、唐津から、別に、定期船で、釜山に渡ることゝなつて居るのである。

清國

清國(支那)

面積

清國の全土は、アジアの四分の一以上を占め、その廣さは、

人口

わが國に、二十六倍程もあり、人口は、四億以上もあつて、世界人口の、四分の一に當つて居る。

區劃

域内を、支那本部、滿洲、蒙古、新疆省、青海、西藏の六部に分ち、更に、政治上の便宜によつて、支那本部は、直隸、山東、山西、陝西、甘肅、河南、江蘇、安徽、湖北、四川、浙江、江西、湖南、貴州、雲南、福建、廣東、廣西の十八省、滿洲は、盛京、吉林、黑龍江の三省(東三省とも

地勢

いふに分れて居る。

土地はパミル臺地のつゞきであるから、西部は、無論、高いが、漸次、支那本部に、低くなつて居る、山脈の、大きいものには、國境に、ヒマラヤや、アルタイなどがあり、内地に、崑崙や、天山などがある、また、支那本部には、數條の山脈が、相並んで、大體の方向は、東西に走つて居る、二箇の山脈があるが、普通に、その北のを北嶺、南のを南嶺といつて居る、名山としては、支那の五岳として、泰山、衡山、嵩山、華山、恒山が、名高く、わけて、山東省にある、泰山は、その名が、最も、よく著はれ、「泰山は、土壤を讓らず、故に大いなり」とか、「泰山を腋ばさみて、北海を越ゆ」などあるは、この山のことである。

五岳

河

河の大きいなのは、先に、總論にて記した、揚子江と、黄河と

黄河

の外に、南部の廣東河、滿洲の遼河が、稍大きく、舟楫の便があつて、内地の交通を助けて居るが、獨り、黄河は、その長さが、千二百里以上の、大河なるにも拘はらず、舟運の便がない、そのわけは、流勢が急である上に、この河の流路は、質の軟かな、黄土層を通つて來るから、一朝、大雨が降れば、その水は、思ふままに、土砂を打ちこはし、これを洗つて、下流の河底に沈めるから、河底は、まゝ、附近の地よりも、高い所があるによつてである、それ故に、もしも、治水のことを怠ると、その水は、忽ち、數省内に氾濫し、家屋は潰れ、人民は亡び、昨日の田園は、今日の砂漠と變り、繁華な都邑も、みるうちに、その跡をなくし、幸にして、生き残つたものは、生活の途が立たぬから、隣地へと、流れこむ、その結果は、一揆騒動が、各地に起り、終に、戦亂の基と

なるやうなことがある、とに角、支那に、歴史あつてより、この方の、一大厄介物とされて居るのは、實に、この河である。

天産物

支那の天産物は、殆ど、無限といつてもよいが、中にも外國の市場にでて、名高いのは、生糸、絹織物、及び茶で、いづれも、支那本部から産し、外に、米、綿、砂糖なども、澤山出るが、輸出品の大部分は、先の三種が占めて居る、また、蒙古は、牧畜業が盛んで、婦女兒童までも、ろの事に従ひ、富家は、牧馬の二萬頭も持つてゐるものがある、西藏には、麝香の特産物がある、滿洲は、豆類が多く出で、ろれから製する豆糟、豆油と共に、わが國へ多量に輸出する。わが國との貿易は、漸次、盛況を呈し、去る明治三十六年の主要輸出品は、綠綿(千五百六十萬圓)、豆糟(七百五十萬圓)、豆類(五百五十萬圓)、小麥(二百二十萬圓)、米(二百萬

わが國との貿易

貿易場

圓)などで、主要輸入品は、綿織糸(二千八百萬圓)、石炭(八百萬圓)、銅(四百萬圓)、摺附木(三百萬圓)、卷煙草(百三十萬圓)、金巾(百萬圓)、昆布(百萬圓)などがあるが、さし引、輸入品價額の方が、餘程、上位にあるから、わが國にとつては、韓國よりも、貿易上の大華客である。貿易場は、非常に、澤山あるが、上海を第一とし、北部の天津、内地の漢口、南部の廣東など、これにつき、滿洲では、牛莊が、一等、盛んなのである。

沿革

この國は、世界舊國中の一であるが、古來、王朝の交代が、はげしく、また、ろの度、毎に、國號を變へることになつて居る、今の清朝も、凡ろ三百年前に、滿洲から興つて、建てた名で、一時は、國運が、隆盛であつたが、今より、六十餘年前から、漸次、外國との交渉事件を、ひき起し、ろの都度、失敗に、失敗を重ね、遂に

今日の如く、ロシア、イギリス、フランス、ドイツなどに、一部の土地を占領、或は租借されるやうになつたのである。

わが國との關係

わが國とは、古來、その關係が最も深い、正式に、通商條約を結んだのは、明治四年で、それより、國交は、益、親密であつたが、朝鮮のことから、明治二十七八年戰役を起し、臺灣を、わが國に割讓せしめ、また、わが國が、東洋平和のことにつき、ロシアと、明治三十七八年戰役を、ひき起した結果、ロシアに代り、遼東半島の租借權と、同國が敷設した、東清鐵道の、長春(寬城子)旅順口間の、いはゆる、南滿洲鐵道、及び、その一切の支線を、わが國にとることゝ、なつたのである、その取極書は明治三十八年九月五日、記名調印を終へ、同十月十六日發布せられた、日露平和條約に明記してあるが、今、その條目を摘記せば、

その第五條に、

露西亞帝國政府は、清國政府の承諾を以て、旅順口、大連、並びに、その附近の領土、及び、領水の租借權、及び、該租借權に關聯し、又は、その一部を組成する一切の權利、特權、及び、讓與を、日本帝國政府に移轉讓渡す、露西亞國政府は、又、前記、租借權が、その効力を及ぼす、地域に於ける、一切の公共營造物、及び、財産を、日本帝國政府に移轉讓渡す。

兩締約國は、前記、規定に係る、清國政府の承諾を得べきことを互に約す。

第六條に、

露西亞帝國政府は、長春(寬城子)旅順口間の鐵道、及び、その一切の支線、並びに、同地方に於て、之に附屬する、一切の權

利、特權、及び、財産、及び、同地方に於て、該鉄道に關し、又は、その利益の爲に、經營せらるゝ、一切の炭坑を、補償を受くることなく、且つ、清國政府の承諾を以て、日本帝國政府に移轉讓渡すべきことを約す。

とあり、また、第三條の追加約款に、

第一 兩締約國は、滿洲に於ける、各自の鐵道線路を保護せむが爲、守備兵を置くの權利を保留す、云々。

とある規定にもとづいて、わが國よりは、現時、その守備兵として、滿洲に、第十四、第十六の二箇師團の兵が、置いてあるのである。

人民

元來、支那人は、節儉勤勉で、信約を重んじ、團結力が強く、また、商機に巧みであり、且つ、寛優にして、猜忌心の少ないこと

は、その長所とも、認むべき点ではあるが、進取の氣象に乏しいのと、自尊心の高いのとは、また、一般にその缺点である、見よ、彼等は、今も、尙、男子は、阿片煙を喫し、婦人は、纏足の弊風を廢せぬではないか、彼等は、自ら稱して、中國の人、又は、中華の人といつて、自他との區別をして、居るではないか、支那人の外國に移住してゐるものは、殆ど、四百萬人あるが、皆風を移し俗を易ふることをなさで、一種異様の服裝と、辮髪とに、得々として居る、また、彼等に、義勇奉公の念といふものはさらさらないのである、それ故に、歴代の君主が、よしや、仁政を施しても、喜ばず、また、苛政を行ふても、怒らば、外國に、土地を占領されても、對岸の火視し、外人に征服されても、抵抗せざ、却て、征服者をして、自ら支那化せしむるてふのであるから、支那

てふ國が亡びても、支那人は、支那人として、永劫末代、亡ぶることのないのである。

宗教

支那人が、宗教に對する觀念如何にといふに、孔孟の教を奉ずるものゝ多いのは、いふまでもないことであるが、佛教から分れて出來た、喇嘛教といふが大變、勢力がある、殊に、西藏には、その大本山があつて、法王が、そこに法座を構へて居る、この法王は、ただに、宗教上の活佛であるのみでなく、政治上のことにまでも、その權力を應用するから、中央政府より、派遣されて居る、駐藏辦事大臣といふが、居るけれども、徒に、空位を擁するのみで、法王は儼然たる、西藏國王たるの觀がある、蒙古にも、また、中央政府から、將軍や、都統などの役人を置いてあるが、各、部落、部落に、喇嘛僧の藩王が居て、思ひく

に部内を治めて居るから、恰も、澤山の酋長國が集つて、蒙古といふ、一國を造つて居ると、同じである、結局、西藏も、蒙古も、中央政府の命令は、その人民に行はれて居ない、語をかへていへば、人民は喇嘛王あるを知つて、清國皇帝あることを知らぬのである。

交通

近時の支那ほど、鐵道熱の、盛んに勃興して居る所は、世界に、その類がないのである、この國に、始めて、鐵道の出來たのは、今より、三十年前で、上海、吳淞間の敷設が、嚆矢である、然るに、排外熱の氣運が、固陋の帝國內に充満せることゝて、政府は、イギリス人の敷設した、その鐵道を買收し、つゞいて、軌道を撤去したといふ次第であるから、その後十數年間は、この國に、鐵道てふものは、全く、なかつたのであるが、時世の進運に

つれ、近年に至つて、漸く、交通上の最大用具たることを認めることになつた結果、今は、續々、各地に起工され、また、開通しつゝあるから、現時の延長は、尙ほ、わが國に及ばぬが、それを凌駕することは、實に、近き未來のことであるに相違ない、鐵道の敷設上、最も困難なるは、土地の買収であるとのことである、元來、支那人は、祖先を敬ぶの風が、やかましく、従つて、その先塋の如きは、彼等の、最も大切に、意を用ひて守る所であるから、その移轉問題などが、起らうものならば、また、一揆騒動が始まらぬにも、限らぬのである、今日まで、この國に、鐵道の發達しなかつたのは、これ等も、一大原因となつて居るのである。

この國の、二大奇觀として、昔より、傳はつて居るのは、萬里

万里長城

大運河

長城と、大運河との二がある、萬里長城は、東は、山海關より、西は、嘉峪關に、その延長、凡そ八百里に亘り、大運河は、天津より起り、南の方、杭州に、三百五十里に及び、一は、北狄を防がんがため、他は、水運の利に便せんがために作つたのであるが、この大工事の如きは、蒙昧の時代であつたればこそ、出来たれ、學術技藝の進歩した、今の時世には、到底、なし得べき事業ではないのである。

アジア、ロシア

アジア、ロシア

アジアの北部全体を占むるシベリア、パミル臺地の西北を領する中央アジア、及び黒海と、カスピ海との間に夾まつて居るカフカズの三地方を、アジア、ロシアといふのである。

位置 劃置

アジア、ロシア

樺太

シベリアの東方沿岸にある樺太島(薩哈連島)は、もと、わが國の地であつたが、明治八年に、千島諸島と交換し、その後、日露戦争の結果、再び、同島の南半部を取つたのである、日露平和條約の本島讓與にかゝる條目は、左の通りである。

第九條 露西亞帝國政府は、薩哈連島南部、及び、その附近に於ける、一切の島嶼、並に、該地方に於ける、一切の公共營造物、及び、財産を完全なる主權と共に、永遠、日本國政府に讓與す、その讓與地域の、北方境界は、北緯五十度と定む、云々

交通

この地方は、ロシアが、東方の經營上、必要の土地であるから、シベリアには、シベリア鐵道を敷設し、中央アジアには、外カスピ鐵道といつて、カスピ海の東岸から、東に、メルブ、プハ

ラ、サマルカンドなどを経て、清國の境上、近き處まで、鐵道を敷き、その支線は、メルブから、南の方、イギリス領の境界近き處まで通つて、インドに備へ、また、サマルカンドから、タシケンドを經、シル河に沿ひ、ウラル河に臨める、オレンブルグまでの鐵道も、既に開通して、ロシア本國との連絡をとることとなつたのである。

カフカズ地方は、名高い、石油の産地で、カスピ海の沿岸にあるバクー、及び、その附近の一帶は、産出が殊に、夥しいから、カフカズ鐵道は、油槽車で、これを、チフリスの西に當る、ミカイロポに送り、更に、輸送管線を通つて、黒海の沿岸にある、バタムの貯油所に注流する仕懸となつて居る、われ等の、使用しつゝある露油は、このバタムから、輸送し來るのが多く、そ

石油の産地
(イ)統計表
第五參考

の輸入價額は、年に、三百萬圓程に上つて居る。

アジア、トルコ 附アラビア

アシアトルコ
アラビア

位置

アシア、トルコは、アジアの西部にあつて、その南部は、深く、アラビア半島の、東西兩岸に、くひこんで居る。

沿革

この國は、西洋文化の淵源地であつて、幾千年たつた、今日から見ると、國亡びて、山河空しく存すてふ有様で、エウフラト河畔にあつた、バビロニア王國の首都、バビロンや、チグリス河畔に建てられた、アッシリア王國の首都ニヌアの如きは、その城址を、僅かに、砂塵の中に留めて、居るのみである、また、地中海の海岸にあつて、夙に他國に先だつて、通商貿易の業を開き、硝子の製造や、文字、數字、さては、數學等の發明をした、

フェニキア國、或は、宗教史上に有名な、ユダヤ國の如きも、その繁華は、既に、遠き過去に屬し、ユダヤ人、即ち、ジューの如きは、今は、はや、亡國の民として、世人に厭忌せられて居るのである。この國は、ただに、文明の曙光を放つた地であるのみならず、また、世界大宗教の起源地である、彼のキリスト教の始祖、キリストは、往時の、ユダヤ國の首都イエルサレムの近傍にある、ベテレヘムてふ處に生れたので、その墳墓が、イエルサレムにあり、また、マホメットの教祖マホメットは、メッカに生れたので、その墳墓が、メヂナにある。

イラン地方

イラン地方

區劃

イラン地方は、アフガニスタン、ベルチスタマ、ペルシアの

イラン地方

三國をいふのである。

ペルシアは、随分、古い國で、しかも、今日、アジア洲中、多くも
ない、獨立國の一であるが、古來、國勢は、餘り、振はぬのである、
なせ、國威が上らぬかといへば、無論、位置、地勢、氣候等、種々の
点が、その原因ともなつて居るに相違ないが、それよりも、一
大原因と認めることの出来るのは、第一、國民が懶惰なから
であるうと思はれるのである、さて、どうして、國民が、懶惰に
なつたかといへば、教法によつて、無理押しに、抑へられ、縛ら
れて居るために、人間が、次第に、卑屈になり、懶惰になつたの
である、元來、この國は、マホメット教が、國教となつて居る、マホ
メット教を信仰せぬものは、ペルシア人でないとしてある、従
つて、マホメットの僧侶が、非常に、勢力があり、國政の如きも、そ

の僧侶が、樞機を握り、國法は、凡て、マホメットの教典によつて、
編制されて居るのみならず、この宗教では、豕と、牛とを食ふ
ことを禁じ、羊と、鶏とを食ふことを許して居る如く、食物に
まで、束縛をして居る次第であるから、宗教が、全く、人民を懶
惰にしたのであるといつてもよいのである。

産物

この國の産物は、また、餘り、世間に知られて居らぬが、阿片
と、葡萄とは、餘程、有名である、また、ペルシア灣から取れる真
珠は、世界第一といふても、よい程、多く採取されるのである、
また、國人は、羊肉を食ふために、羊を多く飼養するから、従つ
て、羊毛が非常に、多量に出る、國人の工作品としては、毛氈の
如きは、有名なものとして、世上に知られて居るのである。

インド

政治 二十九萬方里の面積を有する、この國は、地理上、一個の國土であるやうであるが、その内容を窺ふと、藩屬部といつて、

會長や、君主が割據して、小國を造つて居るものがあつて、それ等が、直轄部と共に、イギリスの統治の下に、支配されて、インド帝國を組織して居るのである、また、人口三億を有する人種 この人種は、十一種に分れ、その言語は、七十種の多きに亘つて居るのであるから、イギリスが、この國を治むることの困難なるは、尋常一様ならぬのである、その上、佛滅後、三千年の

宗教 歴史を有して居る、昔の、いはゆる天竺なる、この國の宗教に至つては、佛敎の起源地なるにも拘はらず、だれ一人、佛陀の

インド人の迷信

聖旨を奉ぜるものがなくて、たゞ、僅に、セイロン島の民が、菩提樹の蔭に、その經典を繙いて居る次第で、本土には、却て、インド敎や、マホメット敎や、キリスト敎や、或は、エダヤ敎などが、複雑して、行はれて居るのであるから、人心の統一をはかることは六ヶ敷のであるが、それよりも、國民の四分の三は、インド敎に歸依して居るから、これが、大いに、人文の進歩を阻害して、開發上、一層の骨が折れるのである、何故とすれば、この信者は、迷信が、非常に強く、人が死ぬると、その死屍を平らかな石上に積み、一抹の燄を放つて焼き、その燼體灰は、皆ガンガ河に投棄するのが習慣になつて居るが、その燃料を購ふ資力のない貧人は、死屍を、そのまゝ、河中に投げこむのである、すると、一種の瘴惡な鳥が、その浮流する屍をついて、腐

爛して肉を食つて了うので、實に、荒涼の極みである、それよりは、聞くも、肌に粟を生ずるを覺ゆる話は、人が老ゆると、ガンガ河に投げ、神水を飲まして、死なしめたり、夫が死ぬると、その妻は、遺骸と共に、燔死したりするなどの、悲酸な風習がある、なほ、一種異様の感に打たるゝは、この信徒には、十二歳に満たぬ幼女が、婚約を結ぶことになつて居ることである、而して、結婚の約が出来ると共に、その少女は、學校に入ることが出来ないのみならず、もしも、その夫が死ぬることがあれば、可憐や、少女は、寡婦として、生涯を立てねばならぬのである、かくの如き、弊習の犠牲となつて、結婚の自由を奪はれて居る、いはゆる少女の寡婦が、現在で、二百五十八萬九千餘の多きに及んで居るといふを聞ては、實に、驚歎の至りで

學事
交通

ある、イギリス政府は、この惡舊慣を打ち破つて、人心を向上せしめむがために、域内處々に、大中小の學校を建て、學事の普及をはかり、また、内地には、二萬七千哩の鐵道を敷いて、拓殖に意を注いで居るが、その効果は、はか／＼しくないので、今も、なほ、ガンガ河畔の靈地を巡禮して、餓死するものや、寺院に斷食して、死をまつものが、いやが上にも、澤山あるのである。

産物

この國は、氣候が熱いから、天産物が、多く出来、殊に農産物は、その種類が夥しいが、中にも、米、茶、咖啡、阿片、綿、麻などは、産額が多くて、綿の如きは、アメリカ合衆國、エジプト、と共に、世界の三大綿産國といはれ、その産額よりいへば、第二番目に位し、わが國へも、日本郵船會社の船が、ボンペーあたりから、

多く、積み來るのである。

インド支那半島

インド支那半島

區劃

インド支那半島は、インドの、前インドに、對して、また、後インド半島とも、いふのである、分れて、バルマ、海峽植民地、シム、フランス領インド支那の四部となつて居るが、フランス領インド支那が、また、トンキン(東京)、アンナム(安南)、コチ支那(交趾支那)、カンボヂアの四部に分れて居る。

邦政

バルマ

バルマ、シム、アンナムの三國は、皆東洋屈指の獨立王國であつて、中にも、バルマは、二千四五百年前の建國にかかる古國であつたが、安政年間から、漸次、イギリスに侵略せられ、明治十九年に、全部その占領に歸し、今は、インド帝國の一部と

アンナム

コチ支那
トンキン
カンボヂア

なつて居る、アンナムも、また、もと、フランス領インド支那の大部に割據して、名高い國であつたが、西曆十八世紀の末から、國勢次第に衰へ、フランスは、その間に、ことを構へて、コチ支那、トンキンを割かしめ、終に、アンナム、カンボヂアまでも、その保護國としたので、残るは、たゞ、シムの一國である。

住民

このあたりの住民は、蒙古人種や、マライ人種や、或は、蒙古、マライの雜種民族が、大部分を占め、熱帶國民の常として、怠惰遊佚に耽つて、進取の氣象に乏しいが、その代りに、支那人が、非常に優勢であつて、勞働は、もとより、商權は、全く、彼等の掌握する所となつて居る、また、この地方は、佛教の、餘程、盛んな處で、わけて、シムの如きは、男子は、一度僧侶とならねば、國民たる資格がないことになつて居るから、二十歳前後にな

インド支那半島

れば、皆僧籍に入り、七八ヶ月から、永きは、二年間も、村里に托鉢して、後に、還俗する、國王ですらも、即位前には、必ず、僧侶となるの恒例がある。

産物

この地方は、世界に名高い米産地で、シム米、トンキン米、ラングン米、サイゴン米などは、インドのカルカタ米と共に、我が國の市場に、あらはれて居る、米作は、年内、一回ではあるが、産額は、非常に、多量で、殊に、シム^{シム}の如きは、耕作法は、拙劣で、農具といへば、幼稚で、收穫後には、田中に、水牛を放養するから、自然に、牛糞の肥料が得られる外は、植付前後に、肥料を施さず、植付後、收穫に至るまで、更に、手入れをすることがない、また、收穫した稲は、これを山積し、その中央に、一本の柱をたて、これに數頭の水牛を縛りつけ、稻上を踏みつけ、還走して、穂

を落さしむるてふ有様であるから、粒々皆辛苦てふ語は、このあたりでは、適當せぬのである。

マライ群島

マライ群島

區別

マライ群島てふ名は、マライ人種の、根據地であるから、いつた名稱である、群島中で、名高い島は、スマトラ、ジャバ、ボルネオ、フィリピンなどである、その中、スマトラ、ジャバ、ボルネオの一部に、イギリス領がある、オランダ領で、フィリピン諸島は、アメリカ合衆國領である。

このあたりは、農産物に富み、また、熱帯地方ではあるが、氣候は炎熱堪へがたいといふ程でもないから、わが國民の移住に適し、また、一般に、それを歓迎する傾きがあるから、行く

フィリピン諸島との関係

行くは、わが國民が優勢を占むるのであるう、わけて、フィリピン諸島は、古くより、わが商人が、渡航して、貿易を營んで居たので、中にも、豊太閤の如きは、原田孫七郎の献策によつて、手紙を、こゝの總督にやつて、降服をすゝめたことがあつた。

フィリピンの産物

フィリピン諸島の産物で、名高いのは、麻、煙草、砂糖、及び、コブラで、この四種が、輸出價額の、九割以上を占めて居る、麻は、マニラ麻といつて、世界の、到る處に出來ない、特産物で、或は、織物に製し、或は、網索に作り、その需用が、大變廣い、煙草は、また、マニラ煙草ととなへ、品位は、世界中の最上に居る、コブラとは乾椰子の實で、南洋諸島などにも産するが、この島の産額が特別に多い、わが國へも輸出するが、主に、實から油を取つて、石鹼の製造に用ひて居る。

ジャバの産物

ジャバ島も、また、米、甘蔗、咖啡、幾那、胡椒等の農産に富み、甘蔗の産額は、七十萬噸以上もあつて、世界中、第一に位し、咖啡も、ブラジルについて、世界第二てふ順になつて居る、外に、石油も、多量に出で、わが國へも、こゝから、這入つて來るものがある。

大洋洲

第二 大洋洲

*

沿革

本洲は、もと、蠻族の部落であつたが、西曆十六世紀のころ、イスパニアが、フィリピン諸島を占領してから、漸次、列國の注目を、ひくことゝなり、領土の發見について、その占領となり、今日では、大概、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ合衆國などが、各その領土を、分けどりして居る、わが國人が、この地方

大洋洲

わが國との關係

へ、出稼するやうになつたのは、近いことであるが、年一年とその數を増し、また、日本郵船會社の、濠洲線航路の船は、香港、マニラ、木曜島、タウンズビル、ブリスベーン、シドニー、メルボルンの各地に、よることになつて居るから、彼此貿易の關係が、一層、親密になつて來たのである。

木曜島

木曜島は、濠洲大陸の、東北端にある、小島であるが、附近の海から、眞珠貝が澤山とれるから、採貝營業の資本家や、潜水水夫などによつて、その繁榮を維持して居るのである、潜水水夫は、わが國人が、その大部分を占め、總体の出稼人が、千人以上に上つて居る、郵船會社の船は、たとへ、荷物の、揚げ卸しがなくとも、往復とも、政府の命令によつて、こゝに寄港することになつて居る。

木曜島と我國との關係

オーストラリアの政治

タウンズビル、ブリスベーン、シドニー、メルボルンは、皆オーストラリア、いはゆる、濠洲大陸の東海岸にある都會で、このあたりにも、わが國人の出稼して居るものが澤山ある。

沿革

金鑛の發見

オーストラリアは、イギリス領で、今から、百餘年前までは、同國が、罪人の放流場として居つた所で、一般、人民の移住を許したのは、それより後のことである、この地が、俄かに移民を招きよせたのは、今から、五十年程前の、金鑛の發見からである、爾來、植民の發達につれ、域内を、ビクトリア、ニューサウスウェールズ、クインズランド、サウスオーストラリア、ウェストオーストラリアの五州に分ち、これに東南海中にある、タスマニア島を併せて、オーストラリア聯邦を造り、イギリスから派遣されて居る總督が、全部を治め、内閣も組織され、聯邦

オーストラリア

議會もあつて、政治の機關は、獨立國と同様、完全に備はつて居る。

産物

この地の産物は、前段にいつた、金の産出が第一で、その産額は、アフリカ洲のトランスバール、アメリカ合衆國、ロシアと共に、世界の四大金産國とよばれて居る、今、その産額を表にて示すと、左の通りである。

世界の金産額

國 別	明治二十六年	明治三十五年	明治三十四年
オーストラリア	一六、四〇、〇〇〇	一三、一五、〇〇〇	一五、七〇、〇〇〇
アメリカ合衆國	一四、一三、〇〇〇	一〇、〇〇、〇〇〇	一七、三三、〇〇〇
アフリカ	一三、九六、〇〇〇	六、四七、〇〇〇	一八、七九、〇〇〇
ヨーロッパ	一四、二三、〇〇〇	四、九三、〇〇〇	五、四三、〇〇〇

ア ジ ア	五〇、八六、〇〇〇	四、三九、〇〇〇	五、〇九、〇〇〇
カナダ	三七、六九、〇〇〇	四、四二、〇〇〇	四、二七、〇〇〇
南及中央アメリカ	二五、三三、〇〇〇	一五、三五、〇〇〇	二五、二八、〇〇〇
メキシコ	二二、三三、〇〇〇	一〇、三三、〇〇〇	二〇、五〇、〇〇〇
計	六五、〇四、〇〇〇	五二、七九、〇〇〇	五四、九五、〇〇〇

また、この地は、羊の飼養が盛んに行はれてるから、羊毛の産額は、七千貫以上に達し、世界第一に位して居る。

氣候

この地は、赤道以南にあるのであるから、氣候の上からは、わが國と反對である、詳しくいへば、わが國の夏は、この地の冬で、わが冬は、この夏のであるてふことを注意せねばならぬ、わが貿易商などが、わが國の夏を見こんで、團扇などを仕入れ、この地に渡らうものならば、飛んだことになるのであ

る、また、ここへ行くには、赤道直下を横ぎらねばならぬから、貨物の包装や、荷造などは、特別の注意を要せねばならぬのである。

ニウージーランド

この地の東南、千二百海里の洋中に、ニウージーランド島がある、これも、イギリスの領地で、面積は、わが國の、本州と、九州とを合せた程よりも、少しく小さく、人口も、また僅か、八十五万よりないが、一年の、輸入品の價額が、一億三千餘萬圓てふ巨額を示し、而も、その四分の三は、製造品である、語をかへていへば、八十五萬の住民が、一億三千餘萬圓の物を、消費する勘定になる、世界中で、恐らくは、これ位、購買力の強い所は多くあるまいと思はれるのである、この島の輸出品は、肉類、製乳品、羊毛、金などが多いが、その著しいものは凍肉で、巨大な

る冷蔵船が、頻繁に出入して居る。

ハワイ

沿革

大洋洲の中で、今一つ有名なのは、ハワイである、この島は、もと、獨立の王國であつたが、アメリカ人が増殖した結果、政府を顛覆して、共和政府をたてた、これが明治十六年の出來事で、降つて、同三十一年に、アメリカ合衆國に合併して、今は、その領地となつて居るのである。

ハワイの八島

人口

ハワイとわが國との關係

ハワイは、大小二十餘の島から出來て、ハワイ、マウイ、カンラウイ、ラナイ、モロカイ、オアフ、カウアイ、ニハウを、ハワイの八島といつて、最も主な島である、面積は、總体で、わが國の四國よりも、稍小さく、人口は、十五萬餘であるが、わが國人の出來稼して居るものが、十三万以上もあつて、多くは、勞働者で、製糖業に従事して居る、聞く所によると、一日、十時間の勞働で、

ハワイ

月に、十六弗から、十七弗の貸金を受け、漸次、進んで、七十五弗までの収入を得ることが出来ることである。

この地の重要輸出品は、砂糖が殆ど、その全部を占めて、輸出品價額、凡そ五千萬圓の中で、四千八百萬圓となつて居る、咖啡、米、果物などが、その次である、わが國からの輸出品價額は、二百五十萬圓程もあるが、多くは、勞働者の需用品で、米や、醬油や、酒などがその主なるものである、こゝより、わが國への輸出品價額は、僅か、一萬圓ばかりに過ぎぬのである。

バプア島

以上の外、大洋洲には、オーストラリアの東北に、バプア島がある、また、新ギニア島ともいひ、面積は、ホルチオ島よりも大きく、イギリス、オランダ、ドイツに分属して居る、この島に極樂鳥の特産品がある、この鳥は、また、風鳥といつて、性質や、

極樂鳥

習慣は、鳥に似た所があるが、その羽毛は、頗る美麗であるから、婦人用帽子の裝飾に用ひ、重要商品の一に數へられて居る。

マリアナ諸島

また、わが小笠原群島の南方、五百海里の洋中に、マリアナ島がある、先きつ頃までは、イスパニア領であつたが、同國が財政困難の結果、ドイツに賣渡したが、この島の南端にあるグアム島は、米西戦争といつて、アメリカ合衆國が、イスパニアと戦争の結果、これを占領し、今は、同國海軍の根據地となつて居り、また、マニラ、ホノル、間を航行する、船舶の、石炭搭載地となつて居る、この島から、わが國へ、海底電線が、架せられて、三十九年の八月から、開通して居る。

洲ヨーロッパ

第三 ヨーロッパ洲

位置

ヨーロッパ洲は、アジア洲の西部に、附着せる大陸で、形ちは、恰も、洋装せる婦人が、南向いて、アジアを踏んで立つてるやうな格好である。⁽¹⁾面積は、アジアの四分の一にも、足りないで、清國よりも、稍小さいのである。

面積
(1)諸統計表
第二参考

本洲は、現時、世界文化の中心となつて居る所であるが、その原因となつたものは、何であるかといふことを、今、地理上から觀察すると、

海岸

第一は、海岸である、本洲は海岸の屈曲が多くて、處々に、廣く、大いな海灣や、半島が出来てるから、海岸から、二百里を距たつて居る内地は、至つて少なく、また、いづれの岸にも、港灣

地勢

が、出来て居るのである。

第二は、土地の高低である、本洲には、アルプのやうな、大山脈もあるが、地の三分の二は、低地で、然も、海拔六百尺以下の處は、全土の、二分の一に亘つて居るから、餘程、交通の便を助け、また、アルプの如きも、數條の隧道トンネルを鑿つて、鉄道が通つて居るから、交通上、絶對の妨害となつて居らぬのである、而して、本洲の河は、大概、流勢が緩く、水量が多いから、舟が通り、中にも、上流まで、舟楫の便を有するものがあり、また、運河が、縦横に開けて、河と、河とを連絡して居るから、内地と、海岸地方との、交通を利することが、大きいのである。

氣候

第三は、氣候である、本洲の南端は、殆ど、北緯三十五度であるから、大体は、餘程、北によつて、イギリスの如きは、その南端

が、わが國の樺太の北端と、大概、同じ緯度であるけれども、彼は、冬季寒さが緩くて、我は大變、劇しいのである、これ、メキシコ灣流といふ、暖流の、さし響を、多く受けるからであつて、同緯度に位せる、他の大陸と較ぶると、本洲の大部分は、餘程、溫和である。

産業

第四は、産業である、本洲は、天産物が、豊かであるが、殊に、製造工業の動力たる、石炭の供給が、潤澤であるから、産業が、よく發達し、各大陸の粗製品や、未製品は、大抵、この地に輸入され、再び、精製品と化して、世界の各方面に分配されるのである、彼の、イギリスの鐵器や、綿布、フランス、イタリアの絹織物や、樂器類、ドイツの毛織物、スイスの時計、オーストリア、ベルギーの玻璃器等は、世界、いづれの市場でも、その名を知られて居る。

て居る。

住民
(1) 諸統計表
第二参考
民族

第五は、人種である、本洲には、凡そ四億の⁽¹⁾人口があるが、その大部分は、カウカシア人種で、民族上から分けると、チャートン、ラチン、ケルト、スラブの四種となつて居る、この四民族中で、本洲文化の先鋒隊となつて、現はれたのは、ラチン民族で、中堅となつて、出て來たのが、チャートン民族で、現時、本洲にて、全盛を極めて居るのである、これ等の民族は、伶俐にして、發明心に富める、優等なる民族であるから、各種の天産物を、よく利用し、厚生して、今日の花をさかせたのである、これを要するに、以上列舉したる諸点は、本洲が、他大陸と、大いに、その趣を異にして居るので、これ等が、諸般周圍物の感化と相まぢ、互に縁となり、因となつて、本洲の文明を形成したのである。

る。

ロシア

沿革
ロシア

この國は、西曆十七世紀の末に、ペテロ大帝が即位してから、國勢が次第に、強大となつた、本洲新開國の一であるが、その後、ポーランドや、フィンランドを併呑し、ついで、アジアに地を擴めて、現時の大帝國を作つたのである、わが國とは、安政年間に、通商條約を結び、明治三十七八年戰役によつて、一旦、無條約國となり、同三十八年十月にポーツマス條約によつて、再び條約を結んだのである。

住民
産業

住民は、スラブ民族の代表者で、人口が一億餘もあるうちの、六分の五を占めて居る、國民の生業は、農が主で、住民の九

割が、それに従事して居るから、農産の夥しいのは、本洲第一で、牧畜も、また、その主位を占めて居る、また、森林が多くて、森業は、カナダ、アメリカ合衆國について、世界第三である、この國の生産物で、わが國の、人口に膾炙せるものは、ロシア皮と、ロシア煙草とである。

宗教

この國は、ギリシア教を以て、國教としてあるが、スラブ民族以外の民は、キリスト教や、マホメット教や、ユダヤ教などを信じてゐるものがある、かく、宗教の、異同から、國情、常に、穩でない、また、政体は、君主專制で、「帝意は、即ち、法なり」といふ有様であつたが、日露戰役に鑑み、憲法を發し、人民に、一部の參政權を與へたけれども、自由を束縛することは、舊時に異ならぬとて、一揆騒動が、常に絶えず、今は、殆ど、支離滅裂の情態に

ロシア

なつて居る。

スウェーデン
ノルウェー

スウェーデン、ノルウェー

政体

この二國は、共に獨立の王國で、近き頃まで、スウェーデン國王は、ノルウェーの王位を兼ねて、その國を治めて居つたが、ノルウェーは、別にデンマーク王の王孫を迎へ、國王とし、全く、分離したのである、この二國も、わが國と、通商條約を結んで居る。

氣候

ノルウェーの海岸は、灣流の調和を受けるから、緯度が高いにも拘はらず、氣候は温和で、この國北端の、小島にある、ハンメルフェストは、冬季、三ヶ月の間は日光を見ることがないが、都會を造つて居る、これが、世界最北の都會で、北緯七十度よ

ロフオデン
群島

りも、北によつて居る、また、この國の、ロフオデン群島の附近は、わが國の北海道、北アメリカの、ニューファウンドランド島の沿海と共に、世界の三大漁場といつて、鯨の漁獵が多く、五月の漁期には、漁舟の、ここに集まるもの七千隻、これに従事する漁夫は、四萬人の多きに及ぶといふ、スウェーデンは、良質の鐵を産し、全國三百二十二ヶ所の採掘高が、約四百萬噸に達し、ゲリベールは、國の北部、ロシア境に近い處であるが、鐵を産するにより、鐵道が開通して居る、これが、世界最北の鐵道である。

デンマーク

デンマーク

住民

この國の民は、よく業を勵み、忍耐の氣象に富み、また、一般

デンマーク

に、貯蓄心が強く、貯蓄預金高を、人口に平均すると、一人につき、百五十餘圓に當つて、その多額なることは、世界第一である、わが國の、一人、平均額五圓ばかりに當つて居るのと較べると、實に、月鼈の差である。

この國の面積は、わが九州と、同じ位であるが、廣さ、わが北海道と均しき、アイスランドを、その植民地として居る、この地に、名高い、間歇泉があるが、一定時、毎に鳴動して、熱湯を、五十尺から、百尺までの高さに噴出するものがある。

アイスランド、島

ドイツ

ドイツ

政治

この國は、プロシヤ、バワリア、ザクソニア、ウエルテンベルヒの四王國と、外に、六の大公國、五の公國、七の侯國、三の自由市、

及び一の帝領といつて、フランクフルトから取つた、エルザス、ロートリンゲン(ロ)の二州から出來てる地方の二十六から成立つて、プロシヤの國王が、ドイツ皇帝の名を以て、全体に君臨して居る。

産業

農産と、鑛産とは、この國の二大富源で、農産にては、麥、甜菜、葡萄などが、産額夥しい、また、この國で、盛んに栽培される、ホップは、蔓性の植物で、未熟の果實を乾製して、麥酒の醸造に用ふるものである、鑛産は、鐵と、石炭とが多く、石炭の採掘は、イギリス、アメリカ合衆國について世界第三である、この國は、現時、世界第三の(ロ)商工業國で、麥酒の醸造と、甜菜糖の製造は、世界の首位を占めて居る、また、鐵器の製造は、盛んに行はれて、輸出品の、最も重要なる位置を占め、年額五億マルク以上

(イ) 諸統計表
第七参考

(ロ) 諸統計表
第八参考

ドイツ

軍備

語が違ひ、従つて、習慣、風俗等が、それ／＼異なる所からして、民心、常に一致せず、爲政者、また、統一の政治を行ふに、困難なる事情ありて、いつかは、分離を免がれぬ有様である。この國は、海に向つてゐる處が少なく、また、海外に領地を持たぬから、海軍の設備は、主に、防禦的であるが、列國と、國力の平均上、軍備は、比較的強大である。

産業

穀類と、砂糖とは、この國の、二大重要輸出品で、小麥の如きは、品質が上等であるから、いづれの市場に於ても、他國品を、壓倒して居るのである、また、ハンガリアは、牧畜が、非常に、盛んに行はれて居る、工業も、各種共に、盛んではあるが、わけて、ホヘミアで製造する玻璃器は、品質の美麗なるを以て、世上に名高いのである。

スイス

スウイス

地勢

この國は、山岳が、全土の三分の一を充たし、土地は、本洲中で、一番、高いのであるから、本洲の大河は、多く、源を、ここに發し、湖水も多く、また、アルプの山中には、氷河が出来て居つて、その水が、徐々に、流れ出て、急湍や、瀑布が、處々に出来、山紫は水明と相映じて、風景が佳絶であるから、ヨーロッパの公園といはれ、夏時には、避暑の人、探勝の客が、集りつどひ、旅館は、清麗、心持よく、遊賞の地には、遊覽鐵道などの設備が、完全してゐるから、旅客は、財布の底をたたいて、歸るてふ有様である、従つて、遊人が消費する年額は、七千萬圓に昇り、この國、富源の一となつて居る。

ヨーロッパの公園

交通

この國から、イタリアに通ずるに、アルゲ山下に、二條の隧道が出来て居る、その一は、シンプロン隧道、他は、サン、ゴタルド隧道といふ、シンプロンは、その長さ、一萬九千八百三十メートル、サンゴタルドは、一萬四千九百二十一メートルである、そのシンプロンは、工作に、七年餘を費し、明治三十八年二月に開通し、今日の所では、世界第一の長隧道で、わが最長の、笹子峠の隧道は、殆ど、その五分の一に當つて居る、シンプロン隧道を、汽車が通るのに、急行列車が、二十分から、二十五分間を費やすとのことである。

世界第一の長隧道

産業

この國は、鑛産が乏しく、石炭の如きは、殆ど絶無であるが、山中の、瀑なす河を利用して、水力電氣が得られるから、工業品は、この國、富源の大部を占めて、絹布や、綿布の紡織、及び時

計なきの製造は、頗る精巧を極め、時計の如きは、世界の、到る處に、行き渡つて居る、わが國から、こゝに、生糸、羽二重などが這入つて居る。

政体

この國は、西曆千八百十五年に、ヨーロッパの列國から、永世局外中立國と認められた國で、政体は、數多の聯合から成立つて居る共和政体である、國人、一般に、愛國心に富み、よく、業務に勉勵し、また、節儉の美風がある、されば、貯蓄預金高の人間別は、デンマークについて、世界第二で、一人百三十圓に當つて居る。

住民

この國のベルンには、萬國聯合郵便電信總理局があり、また、ジュネーブには、赤十字社の中央本部がある、いづれも、わが國が、加盟して居るのである、赤十字社の始まりは、この國か

萬國聯合郵便電信總理局
赤十字社中
中央本部

ら、起つたのであるから、その徽章も、この國の、赤地に、白十字の國旗を、その反對をとり、白地に赤十字にしたのである。

フランス

フランス

沿革

この國が、今日の共和政府を造つたのは、わが、明治三年に、プロシアとの戦争に敗れてからである、その戦役の結果、エルザス、ロートリンゲンと、巨額の償金を取られ、一時は、國歩艱難を極めたが、施政のよるしきを得たのと、國民が、産業に力を盡したのによつて、爾來、國運が駸々として進み、三十幾年といふ、年數を経た、今日から見ると、國力の充實してゐることは、實に甚だしいのである、明治三十八年中の、この國の、貿易の⁽¹⁾状態を見ると、輸入品價額が、十八億七千萬圓、輸

(1) 諸統計表
第八参考

わが國との
貿易

出品價額が、十九億一千萬圓、總計三十七億八千萬圓となつて居る、これを前年に較べて見ると、總計一億九千四百萬圓の増加を示して居るのみならず、輸出品價額で、凡そ六千四百萬圓の製作品を増して居るてふ有様は、慥に、この國、工業の盛運を示して居る、わが國との貿易は、わが國からの輸入品價額が、三千三百萬圓餘、わが國への輸出品價額が、八十萬圓で、輸入が、比較的多いのは、いふまでもなく、生糸と、絹布などの多いからである。

産業

工業で、最も盛んなのは、織物で、意匠の巧妙なる、美術品を製造することは、天下に敵がない、とりわけ、絹物の製織は、國人獨特の長技であるから、いつも、世界の流行を左右して居るのである、また、この國は、葡萄の栽培が盛んであるから、葡

フランス

七十五

葡萄酒の醸造高は、四千萬石以上に達し、世界第一に位して居る、彼の、世界の、到る處に、知れ渡つて居る、三鞭酒シヤンパンは、この國の東北部にある、シアンパーニニ地方から出るものである。

ベルギー

ベルギー

面積　この國は、面積が、わが九州よりも小さく、海岸線は、僅に、十七里に過ぎぬのであるが、人口は、約、七百萬に近いから、面積に比べて、人口の多いこと、また、交通が、發達してゐるから、面積に較べて、鐵道の多いことは、共に世界第一等である。

住民産業　この國の人民は、非常に、勤勉で、忍耐力が強く、また、フランスから、ドイツの境上にかけての一帶に、良質の石炭(イ)が澤山に出るので、鐵が、マース河の流域地から取れることにより、

(イ)諸統計表
第七卷考

製造工業が、頗る盛大に行はれて居る、つまり、原料を四隣の大國から輸入し、勤勉の力と、器械の働とによつて、この國の富が作られて居るのである、わが國などに、パリ製と、銘を打つて、商買の販賣する雜貨類は、この國の製品が多いのである。

窓硝子

窓硝子の製造は、今も、なほ、この國が、世界獨歩で、この業に従事する職工は、二萬五千人、製造價額は、一年に、平均三四千萬圓の多きに達して居る、わが國も、過去十年間に於ける窓硝子輸入の價額は、平均五十萬圓になつて居るが、殆ど、皆この國から、賣こむので、この國からの輸出は、イギリス、アメリカ合衆國、オランダ、日本といふ、順序で、わが國を、第四番目の得意先として居る。

わが國の窓硝子

ベルギー

この國の首府、ブルッセルの南方、十三四哩の處に、ワロテールの古戦場がある、その戦は、西曆千八百十五年六月のこと、ナポレオン第一世が、イギリスや、プロシアなどの同盟軍を、敵としたのである、兩軍の總勢、ナポレオンは、兵七萬三千と、大砲二百四十六門、同盟軍は、兵七萬許と、砲門百五十と算せられたが、激戦、數十合の後、同盟軍は、終に、敵を撃退した、この役の死傷、フランス軍は、二萬五千人、同盟軍は、二萬二千人と註せられ、屍の山を築き、血の河を流したといひ傳へて居る、そこに大塚を築き、上に、獅子の像を安置したので、その臺石の高さが、二百尺ある。

オランダ

この王國と、わが國とは、安政年間に、通商條約を結んだのであるが、これよりさき、文祿の頃から、既に交通し、慶長年間には、九州に来て、交易したことがあつたので、當時、わが國人が、紅毛人といつたのは、この國人のことである、その後、徳川時代に、鎖國主義をとつたが、この國のみは、依然、貿易を許したのだから、西洋の文物が、わが國に、這入つたのは、この國との互市が、大いに、與つて力あるのである。

國の面積は、ベルギーと、大抵同じいが、今より、三百餘年前には、國運隆盛で、東洋の貿易を、一手に握り、また、海外に、廣い領地を持つて居つたが、イギリスの勃興するにつれ、漸次、國力が衰へた、されど、今は、現時、本國に六十五倍する領地を持ち、その大部分は、東洋にあるから、わが國運の發展するにつ

地勢

れ、この國との關係は、逐年、頻繁となるであらう。

この國は、土地が低平で、沿海には、海面よりも、低い所があるから、河海の岸には、堤防を築き、内地には、數多の運河を、縦横に疏し、また、風力を利用し、風車又は、唧筒を以て、始終、海水の浸入を防いで居る、「上帝は海を作り、オランダ人は、岸を造れり」との諺は、全く虚言でない。

イギリス

沿革

全地球の、五分の一の、面積を持ち、全世界の、四分の一の、人口を有するイギリスは、海軍力の強さも、外國貿易の盛んなるも、また、世界第一である、これ、蓋し、今より、三百餘年前に、イスパニアの艦隊を破り、オランダに代つて、海上權を握つた

わが國との關係

のが、今日の富強となつた始まりである、わが國とは、安政年間、通商條約を結び、爾來、國交は、逐年、親密であつたが、明治三十五年に、極東平和のことについて、同盟條約を結び、その後、更に、協約を結んだのは、同三十八年八月で、その條約文は、

協約の前文に、

「日本國政府、及、大不列顛國政府は、一千九百二年、一月三十日、兩國政府間に締結せる、協約に代ふるに、新約款を以てせむことを希望し、

(イ) 東亞、及、印度の地域に於ける、全局の平和を確保すること、

(ロ) 清帝國の獨立、及、領土保全、並、清國に於ける、列國の商工業に對する、機會均等主義を、確實にし、以て、清國に於ける、

イギリス

列國の共通利益を維持すること、

(ハ) 東亞、及、印度の地域に於ける、兩締盟國の、領土權を保持し、並、該地域に於ける、兩締盟國の、特殊利益を防禦すること、

を目的とする、左の各條を約定せり、とあつて、本條項には、

第一條

日本國、又は、大不列顛國に於て、本協約、前文に記述せる、權利及、利益、中何れか、危殆に迫るものあるを認むるときは、兩國政府は、相互に、充分に、且、隔意なく、通告し、その侵迫せられたる權利、又は、利益を擁護せむがために、執るべき措置を、協同に考量すべし、

第二條

兩締盟國の一方が、挑發することなくして、一國、若は、數國より、攻撃を受けたるにより、又は、一國、若は、數國の侵略的行動により、該締盟國に於て、本協約、前文に記述せる、その領土權、又は、特殊利益を防護せむがため、交戦するに至りたるときは、前記の攻撃、又は、侵略的行動が、いづれの地に於て、發生するを問はず、他の一方の締盟國は、直に、來りて、その同盟國に、援助を與へ、協同戰鬥に當り、講和も、また、双方合意の上に於て、これをなすべし、

第四條

大不列顛國は、印度國境の、安全に繋る、一切の事項に關し、特殊利益を有するを以て、日本國は、前記國境の附近に於

て、大不列顛國が、その印度領地を、擁護せむがため、必要と認むる措置を執るの權利を承認す、
 などの規定があるから、これよりは、東洋の平和を、永久に保つことが出来るのは、いふまでもなく、一旦、ことあるときは、インドまでも隊兵を派遣するやうになつてゐるから、彼此の交情は、一層親密となつた。

イギリス本國だけの面積は、二萬方里餘、人口は、四千二百万であるから、わが國よりも、面積は、小さく、人口は、少ないのである、住民は、大部分は、チャートン民族で、性質は、一般に、著實で、保守的で、信約を重んじ、勇敢で、忍耐の氣象に富んで居り、また、一般に、海事思想が發達して居る。

國民多數の生業は、農業であるが、耕作地が、全土の、僅か、一

面積

住民

産業

世界主要國民職業比較

割八分よりない、従つて、國民の食用品の四分の三は、主要の輸入品となつて居るから、立國の基礎からいへば、無論、商工業を以て、國是として居るのである、今世界の主なる、國民の職業を比較して見ると、左の表の如くなつて居る。

國名	農業	工業	商業
ドイツ	三七、五	三七、五	一〇、六
オーストリア	三八、〇	三七、〇	一一、〇
ホンガリア	六四、〇	二二、〇	六、〇
イタリア	五七、〇	二八、〇	四、〇
スウェーデン	三七、〇	四一、〇	一一、〇
フランス	四四、〇	三四、〇	九、〇
イギリス	一五、〇	五四、〇	一〇、〇

アメリカ合衆國

三六、〇

二四、〇

一六、〇

○ 殘餘の人員は、軍人、及び、下男、下婢に屬す、

この表によると、農業では、ホンガリア、商業では、アメリカ合衆國、工業では、イギリスが世界の第一位を占めて居る、イギリスの如きは、國民の五割四分、即ち、國民の半ば以上は、工業に従事して居る、ニールカッスルの地などは、殆ど、全市、造船場で、充たされて居るから、この地の小學校で、その教授されてる學科は、多く、その父兄が、朝夕従事せる、造船術の範圍に屬する、諸科を學ばしむるのであるから、もしも、職工の不足する場合には、直に、その不足を補ふて、業務を助けることが、出来るのである、以て、この國、工業の盛大なることが、窺ふことが出来る、また海運事業の盛んなることは、世界第一で、海員の

世界第一の工業國

數が、二十五万人に及んで居る。

(イ) 諸統計表
第七參考

かく、イギリスが、世界第一の工業國たる所以は、全く鐵と、石炭の採掘が多いからで、石炭の産は、年に、二億噸以上、鐵は、千五百萬噸といふ多額を示して居る、工業の最も盛んに行はれ居るのは、製鐵業、造船業、紡織業の三で、紡織の如きは、大工場三千、これに従事する男女職工の數は、人口の八分の一を占めて居る、造船の技術は、また、國人の長所で、世界の各國が、年々、製造する、軍艦や、汽船や、帆船の半分以上は、この國から製造し、クライド、タイン地方が、その中心点であるが、タインのアームストロング會社の如きは、世界に、たれ知らぬものなき位である、また、クライド地方の、グラスゴウは、製造高が、世界第一である、

世界第一の造船國

イギリス

貿易
(イ) 諸統計表
第八参考

工業が、盛んなるにつれては、商業も、獨り、盛んならざるを得ぬわけで、一ヶ年の貿易高が、九十億圓以上に昇つて、遙か、世界の第一等を抜いて居る、而して、輸出品は、いふまでもなく、鐵、石炭から、綿製品、毛製品、鐵器、諸機械、船舶、鐵道用具等が主で、輸入品は、綿、羊毛等の原料品、及び、穀類、肉類等の食用品が、その大部分となつて居る、わが國との貿易は、明治三十七年度の輸出入價額が、殆ど、一億圓に近い、その内譯は、輸出品價額が、七千五百萬圓、輸入品價額が、凡そ二千萬圓である、また、取引される、主な品物は、輸出品では、鐵板、鐵材、鐵塊、生金巾、更紗、汽船、汽關車、軌條、石炭、機械類などが、皆百萬圓以上の金高、輸入品では、羽二重、銅、麥稈、真田などが、百萬圓以上の金高に昇り、中にも、羽二重が、獨り、六百五十萬圓以上になつて居

わが國との貿易

ロンドン

るが、その他のものは、皆金高の少ないのが、誠に遺憾である。世界に名高い、ロンドンは、テムズ河を、十二里ほど、遡つた處に跨つて居る、人口は五百萬以上で、無論、世界第一である、市街は、廣大美麗で、王宮を始め、國會議事堂、ウェストミンスター寺、セントポール寺、博物館、イングランド銀行、取引所などは、最も、よく著はれて居る、この地に駐在せる、アメリカ合衆國の大使が借りて居る、大使館は、一ヶ年の家賃が八萬圓で、一週間が、千六百圓以上に當つて居るが、その六大應接所の如きは、必要のときに、開いて、一室となさば、二千人の來客を、少しの不自由もなく、舞踏せしむることが出来るてふ壯麗なものであるといふ、以て、その他を推し量るに足る、ウェストミンスター寺は、この國、代々の王が、即位式を行ふ寺院で、

ウェストミンスター寺

イギリス

また、王侯、もしくは、偉人や、碩學の人が、死後には、こゝに葬り、記念碑によつて、その名譽を、不朽に傳へることになつて居るのである。市内の公園では、一番、名高いのが、ハイドパークで、橋では、ロンドン橋である。ロンドン橋は、一日の通行人が、五十萬人を下らぬといふ、この市は、また、世界第一の商業地で、大洋通ひの船舶は、直に、こゝに投錨することが出来るから貿易盛大に行はれ、商業の、一舉一動は、皆世界中の相場に、さし響をする有様である、この地に、わが國の大使館も、總領事館も、設けられてあり、また、在留人も多く、日本人協會も、設置されて居る。

イスパニア

イスパニア

沿革

この國は、イギリス、オランダに先だつて、世界の海上權を握り、西曆十六世紀の前半には、國力が富強で、海外に數多の領地を有し、わけて、南アメリカ洲の如きは、ブラジルを除くの外は、大概、その所領で、「イスパニア動けば、世界動く」といふ俚諺が、民間に擴まつた位であつたが、イギリスや、フランスが、頭角を現はすにつれ、國勢、漸次、衰頽に趨き、また、近時、アメリカ合衆國と戦ひ、破られた結果、フィリピン諸島は、同國に取られ、キューバ島は、獨立したから、今は、領土の大部分を失ひ、軍備も、また、いたく縮小した。

産業

この國は、鑛産に富み、水銀の産は、世界第一、銅の採掘は、アメリカ合衆國について、世界第二に位し、また、臭橙、レモン、オリブ、葡萄などの産が多く、従つて、葡萄酒、オリブ油を出

イスパニア

住民 だし、オリブ油の如きは、その産額が世界の首位を占め、牧畜業も、羊の飼養が、盛んに行はれては居るが、國民が怠惰で、忍耐力が乏しく、耕作地は、空しく、雜草の生ふるに任せてある處が、少なくない、また、教育が、不振で、國民の凡そ、百分の七十は、よみ、かきが、出來ぬ有様であるから、國運の、退歩するの

も、無理ならぬ次第である、この國に闘牛が大變、盛んに行はれて居る、殊に、首府マドリッドには、立派な闘牛場があつて、幾千の觀覽客は、紳士淑女より、卑賤の輩に至るまで、盛裝して、これに臨み、金錢を賭して、見物せるさまは、殆ど亡國の徴をあらはして居るやうに見ゆるのである。

古跡 この國は、史上に名高い遺跡が多く、グアデルキビル河の、河口にある、サンルカンには、西曆千五百十九年から、三年かゝ

つて、始めて、世界を一週した、ポルトガルのマガリアエンスが出船した處、バロスは、西曆千四百九十四年に、アメリカを、發見したる、イタリアのコロンブスが、解纜した處、トラファルガル岬は、イギリスのネルソンが、この國の艦隊を、撃ち、破つた處で、これより、イスパニアは、陵夷振はずなつた、また、マホメット教の法王が、アフリカから、渡り來り、この國に、その教國を開いたときの都趾には、コルドバ、グラナダがある。

ポルトガル

ポルトガル

沿革

この國も、また、凡そ四百年前、國勢の盛んであつたときは、イスパニアと、海上の覇權を争つたので、海外には、ブラジルの如き、大國を、その領地として居つたが、今は、國威、全く振

ポルトガル

わが國との
關係

は老なりぬ、わが國とは、足利氏の末世から、交通しはじめ、キリスト教の舊派、いはゆる、天主教や、鐵砲を、われに傳へたのである。

住民

この國の住民も、また、イスパニアと、同じ系統で、ラチン民族が、その大部分を占め、多くは、忍耐力に乏しく、教育も、また、不振で、よみ、かきを、よくせぬものは、人口の、凡そ八割といふ割合となつて居るから、農産や、鑛産や、はた、水産物なぞの利あるにも拘はらず、國威のあがらざるは、誠に遺憾の至りである。

教育

イタリア

イタリア

沿革

イタリアは、今より、四十餘年前に、サルヂニア王が、半島を

統一して、建てたる國であるが、古代には、ギリシアについて、早く、文明の華をさかせる、ローマ帝國は、この國の首府、ローマを中心として興つたので、その版圖は、アジア、ヨーロッパ、アフリカの三大陸に跨がつた、大帝國であつた。

住民

住民は、ラチン民族の代表者で、美術思想に富み、音楽、彫刻、繪畫、建築などの、技藝に堪能ではあるが、また、忍耐力が乏しく、輕躁浮薄の傾きがあつて、怒りやすく、一種感情的の人間で、而して、殊に、何となく陰鬱の氣性を帯びて居る、總じて、ラチン民族の建てた國は、イスパニアといはせ、ポルトガルといはす、この國も、また、國勢は、舊時の面影を留め、國債は、漸次増加し、財政は、いつも、困難に陥つて居る。

ローマ法王

キリスト教の舊教を、總支配して居る、ローマ法王は、今は、

イタリア

た、ローマ府の、パチカン宮殿の一廊にあつて、法務を統理して居るのであるが、昔しは、獨り、宗教上のみならず、政治上の權力をも、一手に掌握し、各國の帝王は、法王の加冠を得なければ、帝王たる資格がないのであつた、また、よし、帝王たりといへども、罷りちがへば、たやすく、階下に、跪つかねばならぬやうな、全盛の時代もあつて、喜べば、賞あり、怒れば、罰あり、法王の一顰一笑は、實に、神人の、共に恐るゝ所であつた、われわれの、今日、用ひて居る太陽曆は、西曆千五百八十二年に、時の法王、グレゴリオ十三世が、在來の曆を改正したのである。

この國は、東洋に於ける、わが國と共に、二幅對ともいふべきほどの火山國で、わけて、ナポリ灣に臨める、ヴェスビオ火山の如きは、古來、幾たびとなく、烈しき噴火をなし、熔岩を流し、

火山國

土灰を降らして、慘害を蒙らしめたが、殊に、紀元九年の大破裂には、山麓にあつた、ヘルクラテウム、ポンペイの二市街を、地中に埋没したことがあつたが、今は、ポンペイのみが、發掘されて居る。

産業

火山のある處に、硫黄が出るのであるから、火山の多い、この國は、わが國と共に、その二大産國といはれ、輸出額は、年々、増加して、五十萬噸からになつて居る、その販路も、逐年、膨脹せるが、これは、それを使用する、工業や、農業の發達する結果のみでなく、近年木材質より、紙を製造することが出来るから、その材質より、鑛分原料を、分離せしむるために、硫酸を使用することが、多くなつた加減である、また、この國の重要産物として、數ふべきものに、生糸がある、これは、支那、日本、及び

この國を、世界三大生糸國といつて、ヨーロッパの市場に、名高く、わが國の生糸と、リヨンの市場で、競争の有様である、その他、この國では、石炭の産が乏しいから、器械的の大工業は、行はれて居ないが、絹布、毛織物、麥稈真田などの精巧なものが出来、また、葡萄酒、オリブ油も、輸出品中の上位に居る、わが國との貿易は、近年、著しい進歩をなし、明治三十七年度に、輸出品價額は、百萬圓足らずであるが、輸入品價額は、千二百萬圓以上になつて居る、主要輸入品は、生糸で、一千萬圓以上になつて居る。

交通

この國の形ちは、長靴状をなして、海中に突き出てるから、陸境は、至つて、少なく、然も、その少ない陸境は、アルプ山脈を、ひき繞らして居るから、交通上、スイスとの間には、前に記し

わが國との貿易

ジェノバ

た通り、シンプロン、サンゴタルドの隧道があり、フランスとの間には、一萬二千二百三十八メートルのモンヌニ隧道があつて、鐵道が通じ、ミラノは、スイスに、トリノは、フランスに通じる、交通上の中心点となつて居る、ジェノバは、コロンブスの生れた處で、ナポリと共に、この國の軍港である、日露戦争のとき、わが國が、購入した、日進、春日の二艦は、この造船所で造つた船である、ナポリは、國內第一の都會で、市街は、丘陵により、東方に、ベスビオ火山を控へて、風景うるはしく、「ナポリを見て、而して、後に、死せよ」との俚諺がある。

ナポリ

バルカン半島諸國

バルカン半島諸國

區劃

バルカン半島には、現時、邦政上、ロマーニア、ブルガリア、セバルカン半島諸國

政治
沿革
ギリシア

ルビア、モンテネグロ、トルコ、ギリシアの六國がある。
六國の中で、ギリシアは、本洲中で、最も早く開けた國、いはゆる、西洋の先進國であつて、二千三四百年前に、文學も、技藝も、既に發達して、ヨーロッパの蠻野を照したのであるが、後に、ローマに亡ぼされて、永く、獨立を失つて、トルコ領となり、今から、七十餘年前に、イギリス、フランス、ロシアの援助を受け、再び、獨立したのである、されど、今も、なほ、國威揚らぬ、財政、いづも、困難である、ロマニア、ブルガリア、セルビア、モンテネグロは、もと、ギリシアと同じく、トルコ領であつたが、西暦千八百七十六年(明治九年)のロシア、トルコの戦争の結果、ロマニア、セルビア、モンテネグロは、各獨立し、ブルガリアは、トルコの治下に、自由政權を有する、附屬國となつた、また、トル

トルコ

コは、古へより、君主獨裁の政治で、その建國は、六百餘年前なるが、今より、四百五十年前頃は、東ローマ帝國を亡ぼし、その版圖は、廣く、アジア、アフリカ、ヨーロッパの三大陸に跨り、國勢は、一時、旺盛を極めたのであるが、國力、漸次、微弱となり、半島諸國は、先に記した通り、各獨立し、今は、たゞ、アジアトルコを領するのみで、アフリカのエジプトは、有名無實の屬國となつて居る。

第四 アフリカ洲

アフリカ洲

位置 アフリカ洲は、ヨーロッパ洲の南に位する大陸で、東北の一部が、スエズの地峽によつて、アジア洲と、連絡して居る、この大陸の廣さは、アジアの四分の三、ヨーロッパの三倍に當つて

居る。

沿革

この洲は、これまで、「暗黒の大陸」とよばれた處で、政治上の區劃は、久しく、世人に、公認せられなかつたが、リビングストンや、スタンリーなどの冒険家が、内地を探險してより、ヨーロッパの諸國は、競うて、その領土を分割し、僅に、コンゴ獨立國、アビシニア、マロッコ、リベリアなどの國々、及び、内地の蕃族が、造つて居る、部落を除くの外は、大概、イギリス、フランス、ドイツ、ポルトガル、イタリア、イスパニアなどの、勢力範圍の下に、這入つて居る。

探險史

古來、この大陸に、足跡を印した、歴史を調ぶると、
一、フランスの、北部海岸から、出帆した、水夫等は、西曆千三百六十四年に、ギニア灣の一部を發見し、

二、ポルトガルの航海家、バルトロメ、ディアズ氏は、千四百八十七年に、本洲南端の海角を發見し、これに、カボトルメントンの名を附け、

三、ポルトガルの航海家なるバスコダガマ氏は、千四百九十七年から、九十八年に、カボトルメントン岬を廻航して、東岸にいで、北緯二度の邊に行つた、時の、ポルトガル王は、インドへの航路を得たりとて、これに、喜望峯(グロドホープ岬)の名を附け、

四、スコットランドの遊歴家、ジェームスブルース氏は、千七百七十年に、碧ニール河の河源を發見し、

五、千七百八十八年に、アフリカ協會を設立し、リチャードマンゴ、パーク氏に、ニジール河の領域を發見せしめ、

六、宣教師モファット氏は、千八百四十年に、始めて、南アフリカを探險し、

七、リビングストン氏は、千八百四十九年に、北緯二十度の南、東經二十三度の東にある、ヌガミ湖に達し、千八百五十三年に、ザンベジ河口から、西部アンゴラの、ロアンダに向け、大陸を横斷し、千八百五十九年から、六十三年に至り、ニアッサ湖の西にある、バングエオロ湖附近のイララで斃れ、

八、イギリスの遊歴家バートン、スピークの二氏は、千八百五十八年に、タンガニカ湖を發見し、千八百五十八年に、スピーク氏は、ビクトリア湖を發見し、

九、イギリスの博物家ベーカー氏は、千八百六十四年に、ア

ルベルト湖を發見し、

十、カメロン氏は、千八百七十四年から、七十五年間に、中央の熱帶地方を東西に横斷し、

十一、スタンリー氏は、千八百七十五年、ビクトリア湖を週航するに、八十日を費し、千八百七十七年に、内地から、コンゴ河口に達し、

十二、ヨセフサムソン氏は、千八百八十四年に、北緯二度の南、東經三十六度の東にある、マサイ地方から、ビクトリア湖に直行したのである。

本洲は、右に述べた如く、數百年來、幾多冒險家の探險を経て、漸く、世人の注目をひくに、至つたので、エジプトを除いては、古來、文明の氣流を受けたことがない、その然る所以を、今、

地勢

地理上から見ると、ヨーロッパと全く、正反對の現象を示して居る。

海岸

まづ、地勢を見ると、本洲には、半島や、海灣の大きなものがないから、海岸の屈曲が、至つて少なく、その延長は、六千三百里よりない、わが國の、八千里と、比較にならぬ位である、また、内地は、四周の縁邊に、殆ど、山岳を引き繞らし、内地は一般に高原を造つて居るから、内地と、海洋との交通が、全く杜絶されて居る、本大陸には、ニール、ニジール、コンゴ、ザンベジ、オレンジなどの大河があつて、流程は長く、流域は廣くて、大陸を縦ひ合せて、居るやうであるから、交通上に、大いなる便益を與ふるかの如く見ゆるが、縁邊の山岳のために、下流は、急湍瀑布をなして、船舶の航行を許さぬのである、これ等は、皆ヨーロッパ

河

と異つて、居る。

氣候

氣候は、土地、十分の七は、熱帯に位せるのと、アジア大陸のために、東北貿易風のないので、海上から、吹いて來る温風が、縁邊の山脈に衝突して、内地に、降雨の少ないのにより、大部分は、炎熱乾燥で、降雨の少ないのが、砂漠を造つて、北部には、サハラ砂漠、南部には、カヲハリ砂漠などの不毛の地が出來、砂漠地は、晝間の熱氣を柔らぐる、水濕がなきたため、夜間は、冷氣、殊の外強く、サハラ砂漠の如きは、晝間の温度は、華氏の、二百度に昇り、夜間は、氷点下四度にも降り、一夜の雨は、三年の牧草を生せしむるに足る、てふ程である。

砂漠

天産物

本洲には、不生産地が多いから、天産物が、少なく、従つて、産業は、未だ、全く、發達せき、製造品は、皆これを、ヨーロッパに仰ぎ、

内地より出づる、駝鳥の羽毛、象牙、護謨など、交換して居る、
鑛産も、鐵や、石炭の採掘は、甚だ乏しいが、南部地方は、金と金
剛石とが出るから、この地方は、人口が、稍多いのである。

人種

本洲は、黒人種の根據地で、人口二億のうち、その五分の四
位は、この人種である、劣等人種の常として、蒙昧にして、事理
に通曉せず、製造の法、工作の術を知らず、人文の開發は、得て
期すべからざる有様である、北部地方には、カウカシア人種
に屬する、アラビア人、エジプト人、ユダヤ人などが居るが、こ
れ、また、開化の度が、餘程低い、たい、南部地方に、ヨーロッパから
移住して來た、ものが居るのである。

これを要するに、以上列擧した諸点が、相綜合して、文明の
曙光は、今も、猶、本洲の蠻野を照さぬのであるが、人力が、天然

力に、うち勝つ以上、たとへば、道路は、平坦、砥の如く、奇麗にな
り、鐵道は、網の如く、縦に、横に連なつて敷かれ、電燈の光明は、
暗を破つて、荒涼無涯の原頭を耀かし、今までは、鬼が棲んで
居た、蛇が栖つて居たといふ、この大陸の、凡ての、交通機關が、
備はつた以上は、たとへ、その國民の、未開なるにも拘はらず、
その民人の蒙昧なるにも拘はらず、白人が、せし、移殖し
來つて、その土地を開拓するのである、而して、土地の開拓に
つれて、こゝに、都邑は開かれ、こゝに生産は起り、財源が、始め
て、確定するのである、財源、既に確定せば、文明の仲間入をす
ることが、出来るのである。

エジプト

エジプトは、世界舊國の一で、カイロ府の近傍に、ピラミッド、
人面獅身の大像など、古代文明の、大遺物を殘して居る、この

國は、名義上はトルコの屬國であるが、實際は、獨立の王國で、イギリスが、財政、及び、軍務に關する、一切に干涉し、財政のことについては、顧問官を派遣し、軍務のことについては、軍務官をして、この國の軍隊を統督せしめ、また、別に、本國から、五千餘の隊兵を駐屯せしめて居るから、實權は、殆ど、イギリスに歸して居る。

スエズ運河

名高い、スエズ運河は、フランス人、レセプス氏が、設計監督の下に、わが、明治二年に開通したので、その幅は三十間から、廣い所は、六十間に亘り、北は、ポートサイドから、南はスエズまで、全長四十餘里に及んで居る、明治三十五年から、河深を改良し、吃水、二十六呎三寸までの、船舶を通過せしむることになつたから、巨大なる船舶の、本運河を利用するもの、逐年

その數を増し、隻數は、大小、併せて、三千七百以上で、その通過料は、四千百五十萬圓に達して居る。

そも、レセプス氏が、この事業を企つるや、トルコ、イタリア、フランスなどは、みな反對をとなへ、イギリスの如きすらも、反抗して、その事業を妨げんとした、然るに、氏、決然として、人言を顧みず、よく、百難を排し、日子を費すこと、十五年、資金を投すること、一億七千萬で、この難事業を大成した、わが、日本郵船會社の歐洲航路船、河内丸船員の語る處によると、スエズ運河通航に費す、通過料は、往復で、六萬圓餘、即ち、一圓につき、四圓に近い税金を拂つて居るが、これを、往時、アフリカの南端を、廻航した時と較ぶると、日數で、十四五日を減じ、石炭の消費高が少なく、また、貨物の搭載が、遠ふといふわけ

であるから、それや、これを、さし引いて、勘定すると、運河を航行する方が、利益であるといふ、運河通行に要する時間を見

るど、
隻 數(二年間)

平均通過時間

晝夜兼行の分

三、五四〇

一七、三四

晝間のみ通航の分

一六六

二四、三四

計

三、七〇六

一八、〇二

即ち、知る、東洋と、西洋とを接近せしめた、このスエズ運河の開鑿は、獨り、一國一洲の福利に止まらざり、地球上、太陽の照らす處、皆無限の幸福を享くることを、嗚呼千載不磨の偉勳といふ、氏のこの事業をいはずして、はた、いづれの事業をいふのであらうか。

エジプトス
ダン

エジプトの南に、エジプト、スダンがある、エジプトの屬地

アビシニア

であるが、實權は、イギリスの手中にあつて、同國が同意し、エジプト王が任命せる總督が、治めて居る。アビシニアは、その東にある、獨立國である。

トリポリ

エジプトの西に、トリポリがあり、その西北に連なつて、チュ

ニリス

ニス、アルジェリアがあり、アルジェリアの西に、マロッコがある、こ

アルジェリ

の地方には、バルバル族が、多數を占めて、居るから、また、バル

マロッコ

バリ地方ともいつて、一般に、マホメット教が、盛んに行はれて

居る、トリポリは、トルコ領、アルジェリア、チュニス、フランス領であるが、マロッコは、君主專制の獨立國である、いはゆる、モロッ

モロッコ草

コ草は、マロッコの特産物である。

サハラ砂漠

バルバリ地方の南は、サハラ砂漠で、東西は、千二百里、南北

マロッコ

は四百里以上に亘つて、内地は、千三百尺から、千六百尺に達せる、不毛の砂丘から、出来て居るが、また、處々に、膏地があつて、泉水がわきいで、植物が茂つて、遊牧の野民が、ろのはどりに住み、駝鳥の羽毛や、砂金や、^{ナツ}棗などが出る、この地方の大部分は、フランス領であるが、東部は、エジプト、南部は、イギリスの地となつて居る。

スダン

砂漠の南は、スダンといつて、東部は、先にいつた通り、エジプト、スダンで、イギリスの勢力下に入つて居るが、西部は、フランスに屬し、中部は、イギリス、フランスの分争地で、フランスが、ろの大部分をどつて居る、この地方は、天産が多くて、砂金、象牙、駝鳥の羽毛などが、出るから、フランスの經營、怠りなく、北は、バルバリ地方から、サハラ砂漠を横ぎつて、ギチア灣

頭へ、鐵道を敷設するの計畫さへ、出来て居る。

リベリア

スダンの西南、海岸地方に、フランス、イギリス、ドイツ、ポルトガル、イスパニアなどの領地がある、その中に、唯一の獨立國で、リベリア共和國がある、これは、アメリカ合衆國から、解放せられた、奴隸の黒人が、歸つて、造つたので、百般の制度は、同國に倣ひ、憲法を作り、大統領を選び、上下兩院の、立法議會をこしらへて居る。

コンゴ獨立國

本洲の中央で、コンゴ河の流域に、コンゴ獨立國がある、この國は、西曆千八百八十五年に、諸國共同に、商業、交通上の便利を得んがために、ベルリン會議の結果で、獨立を承認したので、現に、わが國とも、條約を結んで居る、ベルギー王が、この國を統治して居るから、國の政府は、ベルギーの、ブルッセルに

置かれて居る、産物としては、象牙、椰子油、護謨が澤山に出で、前途有望な國である。

ケープ植民地
 コンゴ獨立國の南には、東西の両海岸部に、ポルトガル、ドイツの領地があるが、中央から南端までは、皆イギリス領で、中にも、ケープ植民地、オレンジ、リバー、植民地、トランスバール植民地の三植民地が、最も名高い。

沿革
 この地方は、いづれも、ダッチボアードといつて、オランダの農夫が、開いた土地で、最初は、今より、二百五十餘年前に、右農夫が、ケープ植民地に移住し來たのである、然るに、イギリス人も、追々、移住し來り、その勢力、終に、オランダ人に、優つたから、オランダ人は、この地を見捨てて、北方に植民し、トランスバール共和國と、オレンジ自由國とを建設し、二國ともに、獨立

國であつた、而して、この二國は、皆金、金剛石の産に富んで居る所から、イギリス人、また、漸次、この地方に移住し來り、本國政府は、ことを外交に托し、この國政府と、干戈を交へ、遂に、西曆千九百年に、その植民地とした。

トランスバール植民地

トランスバール植民地は、世界に名高い、金産地で、先に、オーストラリアの部で、世界の金産額を、表にて示した中で、アフリカの部に、明治三十四年に、千八百七十一萬九千圓、同三十五年に、七千八百四萬七千圓、同三十六年に、一億三千五百九十九萬六千圓と掲げたのは、その大部分が、ここからの産出で、三十四年に、産金額が非常に、少ないのは、全く、イギリスとの戦争のために、鑛業を中止したので、三十六年に至つて、その産額が、俄に、増加し、世界の第三位に昇つた。

トランスバール植民地

百十七

セントヘレ
ナ島

アフリカの西、大西洋の中に、横たはつて居る、セントヘレ
ナ島は、イギリスの属島である、梟雄ナポレオン第一世は、西
曆千八百十五年、ワートルローの一戦に、羽を殺がれ、翼を落
され、七年の星霜を送つて、千八百二十一年の、五月五日に、こ
ゝで、北邨一片の煙となつた。

北アメリカ
洲

第五 北アメリカ洲

アメリカの
由來

アメリカは、西半球の大陸で、今より、四百餘年前に、コロ
ンブスが、その一部を發見したのが、始まりである、この大陸は、
東半球の、舊世界に對し、また、新世界ともいひ、地形上、南北の
二に分ち、パナマの地頸で、その間を連絡して居る、元來、アメ
リカてふ名は、コロンブスよりも、後に、この大陸に渡つた、イ

タリアの航海家、アメリカゴ、ベスプッチの名から、轉訛したので
ある。

面積

(イ諸統計表
第三参考)

グリーン
ランド

北アメリカの面積は、アジアの、凡そ、二分の一、ヨーロッパの
二倍に當つて居る、本洲の北部には、大小數多の島があるが、
年中、大概は、氷結し、彼の、世界第一の大島といつて居る、グリ
ーンランド島の如きも、北方の境界は、無論、不分明で、内地も
一面に、氷河で蔽はれて居る臺地から出來、高いものは、一萬
尺に達して居る處がある、従つて、氷塊か、島か、はた、大陸かは、十
分よく、分らぬ、住民は、西南の海岸に、一萬二千ばかりあつて、
デンマルクの支配を受けて居る。

湖沼

本洲は、湖沼の大陸といつて、湖水の多いことは、世界第一
である、中にも、東北部にある、スペリオル、ミシガン、ヒュロン、エ

スベリオル湖

リ、オンタリオの五湖が最もよく著はれて居る、スベリオル湖は、「世界の淡水湖の王」といはれ、その大きさは、わが北海道本地の、それよりもはるかに大きい、名高い、ナイアガラ瀑布は、エリー湖の水が、オンタリオ湖に通じる處にかゝつて、中央に、ゴート島があつて、その瀑水を二分し、カナダ側では、その瀑布を、ホースシュー瀑布、アメリカ合衆國側では、アメリカ瀑布といつて、瀑水の、飛下することが、百八十尺、その光景は、實に、懐いものである。

ナイアガラ瀑布

住民
(イ)諸統計表
第三參考

本洲の人口は、凡そ、一億であるが、その三分の二位は、ヨーロッパから、移住した、イギリス人、ドイツ人、フランス人、イスパニア人などの子孫である、その餘に、アフリカより、奴隷として、移された、黒人の子孫もあり、本洲固有の土人もあり、また、

インヂアン族

メスチヅ族とて、イスパニア人と、土人との雜種民族もあり、西北部、及び、グリーンランドには、エスキモー族といふものもある、本洲固有の土人、即ち、アメリカ土人は、インヂアン族といふのであるが、これ、コロンブスが、最初に、この大陸の一部に、到着したとき、その土地を、かねて行つて見たいと、渴望して居つた、インド(アジア洲)と推し、その土人を、インド人と量つて、インヂアン、即ち、インド人が居ると、叫んだのが、そのまゝに、固有土人の、よび名となつたのである。

移住民

以上記した通り、本洲人口の大部分は、ヨーロッパ人の子孫であるが、その中、大勢力となつて居るのは、イギリス人の子孫であるから、本洲に用ひられて居る言語は、イギリス語が多く、アメリカ合衆國や、イギリス領北アメリカなどは、イ

宗教

ギリス語が、國語となつて居る、また、宗教はいふまでもなく、キリスト教の新教が大勢力となつて居る。

イギリス領北アメリカ

イギリス領北アメリカ

ニューファンドランド

本洲北部の大部分を取つて居るカナダ、及びニューファンドランド島、ベルムダ諸島を合せて、イギリス領北アメリカといふのである、ニューファンドランド島は、カナダの東方にある島で、附近の海は、海産物に富んで、臘虎、海豹から、鱈、鮭、鱒などの漁獲が多いので、世界の三大漁場の一といはれて居る。

カナダ

産物

カナダは、茫々たる荒野、千里、山を見ざるほどの平原であるから、これまで、産業は、發達しなかつたが、近頃、原頭、處々に、

貿易

立派な市街が開かれ来るにつれ、商工業、次第に、勃興し、カナダ政府、また、熱心に産業を、保護獎勵して居るから、他國から、移住を企つるもの、陸續、踵を接するやうになつて來た、外國貿易は、明治三十八年度の、輸出入品價額は、總体で、九億圓に達した、これを、十年前に較ぶると、實に、十一割二分五厘といふ、増額を示して居る、わが國との貿易も、また、年々、盛況を呈し、殊に、日露戦争によつて、わが國情を知つてより、わが製品を歓迎するの傾きを示し、三十八年度の取引は、わが國から、四百萬圓の輸入をなし、わが國へ百萬圓以上の輸出をなして居る。

わが國との貿易

カナダの氣候

カナダの氣候は、寒暑、ともに強く、夏は、華氏の寒暖計、百二度に上り、冬は、氷点下、三四十度に下り、ロッキーマン地方、ハドソン

カナダ

産物

ン灣地方、ラブラドル地方などは、山河、到る處、氷結するから、陶磁器の如きは、温室に置かなければ、自ら、破碎するてふ有様である、この國は、大變、天産に富み、水産物は、前に記した如くであるが、森林の豊かなことは、世界中第一で、農産では、小麦の産出が、夥しい、また、牧畜も、盛んに行はれて、乾酪の製出は、天下の首位に居る、鑛産は、金、銀、白銅、石炭、鐵の採掘が多くて、金は、名高い、クロンダイクを推し、白銅の産は、世界産の半ば以上を、こゝから、出だして居る。

(1) 諸統計表
第六参考交通
カナダ大平
洋鐵道

この地方の、内陸面、唯一の交通機關は、カナダ大平洋鐵道である、この鐵道は、西は、バンクーバーから、ロッキー山脈を横ぎり、カナダの南部を通つて、ケベックに至るまでが、本線であるが、その支線も、澤山あり、また、東南部には、グランプトラン

ク鐵道、インタルコロニアル鐵道などの、大鐵道があつて、これ等と相まつて、大平洋と、大西洋とを連結して居る、また、他大陸との通信は、ヨーロッパの間には、大西洋に、數條の海底電線があり、大平洋には、フィジー諸島を経て、オーストラリアとの間に、七千餘海里の海底線がある。

カナダのわ
が國民

カナダには、わが國民の在留せるものが、五千人以上もあるが、バンクーバーを中心とし、その附近の一帶、即ち、イギリス領コロンビア洲が、一等、多い、わが國人が、こゝへ出稼するには、コロンビア洲移民法によつて、左の制限がある。

第一が、教育試験といつて、その程度は、ローマ字で、己れの姓名をかける程、歐洲語の力の、有無を試験する、
第二が、移民を輸送し來る、汽船會社は、不合格移民を、送還

すべき責任を有すること、

第三が、不合格移民の、入國を望むものは、五百弗の保釋金、もしくは、それに對する相當の保証を立つることである。

政治

カナダは、西曆千七百六十三年このかた、イギリスの領地となつて居るので、本國から、派遣されて居る、總督は、イギリス國王を代表し、オタワにカナダ政廳を置いて、萬般の政治を統べ、樞密院があつて、これを輔け、立法權は、上下兩院の議會が、握つて居るから、政治機關の發達して居ることは、獨立國と、敢て、かはらぬのである、地方は、行政機關の備つて居る處には、州を置いて、各州獨立の政治を行はしめ、然らざる所は、カナダ政廳が、直接に支配して居る。

アメリカ合衆國

アメリカ合衆國

政治

この國は、もと、イギリス、イスパニア、フランスなどの諸國が、土地を分け領して居つたのであつたが、西曆千七百七十六年に、東北部で、大西洋の沿岸にある、イギリス領の十三州が、同盟を結び、本國政府の壓制を憤つて、獨立をはかり、ワシントンに、全軍の總大將に選み、交戦七年に亘り、遂に、その目的を達して、立憲共和政府をたて、ワシントンを、第一代の大統領としたので、それより、次第に、國勢盛んになり、近傍の諸州、多く、これに加はり、或は、土地を買収して、今は、四十七州、一區、三地方となつて居るので、地方の中には、本洲西北隅のアラスカ、及び、大平洋中のハワイがある、領地には、フィリピン諸

國旗

島がある、この國の國旗に、横線が、紅白二條にあらはれて、十三本あるのは、最初、反旗をあげた、十三州に形どり、上の隅に、星辰の四十七個を並列してあるは、四十七州を現はしたのである。

面積

この國の、面積、人口は左の通りである。

	面積	人口
本國	四九五、〇〇〇 ^{平方}	七六、〇〇〇 ^{千人}
アラスカ	九八、五〇〇	六四
ハワイ	一、〇七五	一六〇
計	五九四、五七五	七六、二三四

地勢

この國の西部は、東では、ロッキー山脈、西では、カスケード山脈、シエラネバダによつて造られて居る、一大盆地で、その幅

百里から、廣い處は、三百里に亘つて居る、この盆地は、三部に分れ、北のはコロンビア高原といひ、南のは、ウァーサチ山脈で、二に分れ、東のを、コロラド高原、西のをグレートベースンといつて居る、中にも、グレートベースンは、四方、山岳で包まれて居るから、鹹湖も出來、砂漠地も、出來て居る。この國の中央平地を流れて居る、ミシシッピ河は、世界第一の長流で、ミズーリ、アーカンサス、オハイオなどの、支流と共に、中央の大部分を灌漑し、河口から、ミズーリ河の水源地まで、千七百五十里、支流を合せるど、舟航八千里に達して居る。

産業

國民の、主要なる産業は農業で、人口の三割六分が、それに従事し、凡そ、十分の一は、皆地主で、規模が、大きくて、機械力を、盛んに應用して居る有様は、兎に角、世界第一である、農産品の

世界第一の農業國

アメリカ合衆國

主なものの産額を挙げると、玉蜀黍が二十五億圓、枯草が十三億圓、綿が十二億圓、小麥が十億圓、燕麥が五億六千萬圓、馬鈴薯が三億圓、大麥が一億圓、煙草が一億圓、甜菜が一億圓といふ、金高であるから、わが國などの産額とは、全く、較べものにならぬ、また、牧畜が盛んであるから、牛酪、及び牛乳は、十三億圓に達し、農産品中で、これに匹敵するものは、前段、第一に掲げた、玉蜀黍があるのみである、鶏卵の如きも、十億圓といふ、巨額に達し、これ、また、前段に示した、小麥と競争せる有様で、農産品の總ての價額は、百三十億圓となつて居る。

米は、わが國から、その種を移植したのではあるが、その成績が良好であるから、現時、わが國民の、テキサス州などへ、移住して、耕作に従事せるものが、少なくない、また、この國政府

(イ) 諸統計表
第五參考
(ロ) 諸統計表
第六參考
(ハ) 諸統計表
第七參考

は、わが國種、農作物の試作を企て、米、桑、繭などより、竹、三椏、百合、獨木、鉛などに至るまで、その種子を各地に分配し、その試作を奨励して居るから、將來、わが國の、大いに、注意すべき結果を生ずるに至るやも知れぬのである、また、林産も、盛んに行はれて居るが、鑛産に至つては、石炭、鐵、銅、金、銀、水銀、石油などの産出が、他に、比類のないほどである。

工業

業も、逐年、繁盛に向ひ、綿布、毛布、鐵器、麪粉、熟皮、造船などの製造は、皆巧妙の域に達し、國民の、これに従事せるものが、二分といふ割合になつて居る、従つて、商業も、また、著しく發達し、資本は、多く、取引は、手堅いのであるから、世界の、各方面に信用を博し、まさに、イギリスを壓倒しやうとするの勢を

商業

貿易 示して居る、貿易は、輸入品價額が、二十億圓以上、輸出品價額が、三十億圓、總計五十億圓以上になつて居る、その主要な品物は、輸出にて、綿、麩粉、小麥、石油、食用品、煙草など、輸入にて、砂糖、咖啡、毛皮などである、わが國との取引は、輸出入價額總計が、一億六千萬圓ばかりになつて居る。

交通

交通の機關は、皆よく備つて居るが、とりわけ、鐵道は、二十五萬哩も敷設され、北大平洋鐵道、大北鐵道、ユニオン大平洋鐵道、中央大平洋鐵道、南大平洋鐵道などの、大鐵道は、皆大平洋と、大西洋とを連絡して居る、また、他大陸との通信は、ヨーロッパとの間には、大西洋に、數條の、海底電線があり、大平洋には、サンフランシスコから、ハワイ、グアム島を経て、フィリピン諸島に至る、七千五百餘海里の海底線が沈設されて居るか

ら、世界の、各方面との間に、通信は、自由自在である、わが國からは、小笠原島を経て、グアム島に連絡せる、海底線が、三十九年の八月から、開通することゝなつて居る。

住民

住民の大部分は、イギリス人の子孫で、性質は、温厚で、進取の氣象に富み、自由平等の主義を尊んで居るから、國民に、貴族の設もなければ、勳爵の定もなく、國民は、「位階は、たゞ、金貨の印象なり」として、その設定を、肯んせぬ、わが國人の、この

國に出稼して居るものは、五萬人以上もあるが、大概各地方に散在し、労働者が、一等、多い、わが國と、交通したのは、ペルリが、國書をもたらし、わが浦賀に來た時から始まり、それから、安政五年に、通商條約を結び、爾來、國交は、年、一年と、親密な

のである。

メキシコ 中央アメリカ諸國 西インド諸島

メキシコ
沿革

メキシコには、アメリカの發見以前に、インデア人が、住んで、アナフック高原の中央で、大いな帝國を造つて居たのであるが、西暦千五百二十一年に、全部、イスパニア領となり、その後、一時は、獨立し、また、一時は、フランスに屬し、千八百六十七年に、また、獨立して、今日の立憲共和政体を建てた、されば、この國の住民は、カナダや、アメリカ合衆國と違ひ、イスパニア人の子孫、及び、メスナツ族が、大部分を占め、多くは、イスパニア語を使つて居る。

この國に、一種の仙人掌サボテンを産するが、それに寄生する、コチニール虫といふ虫から、洋紅の染料を製し、國の特産となつ

産物

宗教

住民

(イ) 諸統計表 第六参考

て居る、また、この國は、鑛産が多く、殊に、銀、金の採掘が盛んで、稼行して居る鑛山、千七百ヶ所の中で、千三百ヶ所は、皆それである、わが國人の、いはゆる、メキシコ弗は、この銀で造つた貨幣である。

中央アメリカ諸國

中央アメリカ諸國には、グアテマラ、サルバドル、ホンヂウラ、ス、ニカラグア、コスタリカの、小共和國と、イギリス領ホンヂウラスの六國がある、これ等の地も、また、もとは、イスパニアの領地であつたが、前の五國は、メキシコと共に獨立した。

ニカラグア運河

ニカラグア運河は、アメリカ合衆國の保護を受け、この湖と、サンフアン河とを利用し、左右の兩洋を連絡せむとする設計なるが、その全長が、七十里許である。

西インド諸島は、メキシコ灣の口から、東南に、カリブ海を抱いて、南アメリカの北部に、飛石の状を造つて居る島々である。

區劃

西インド諸島を、更に、分けて、大アンチル、小アンチル、バハマの三諸島とするが、その中で、一等、大きいのが、キューバ島で、ハイチ島が、その次である、諸島中で、獨立して居るのも、この二島、だけで、その餘の島々は、アメリカ合衆國、イギリス、フランス、オランダ、デンマークなどに附屬して居る。

キューバ島

キューバ島は、もと、イスパニアの領地であつたが、同國と、アメリカ合衆國との、戦争の結果、一時は、合衆國領となり、その後、西曆千九百二年に獨立の共和國となつた、この島は、砂糖、煙草の産に富み、とりわけ、煙草は、ハバナ巻といつて、マニラ

政体
産物

のと、東西の大關株に位して居る。

南アメリカ

第六 南アメリカ洲

面積
(イ)諸統計表
第四參考
區劃

本洲の大部分は、赤道以南に横たはつて居る、面積は北アメリカ洲よりも、稍小さいのである、本洲には、パナマ、コロムビア、ベチスエラ、グイヤナ、ブラジル、エクアドル、ペルー、ボリビア、チレ、パラグアイ、ウルグアイ、アルヘンチナの十二國あるが、その中で、グイヤナが、イギリス、フランス、オランダに分屬せる外は、皆獨立の共和國である、わが國と、通商條約を結んで居る國は、ペルー、ブラジル、アルヘンチナ、チレの四國のみである。

わが國との
條約國

沿革

以上の諸國中、ブラジルが、ポルトガルに領されて居つ

た、外は、もと、みな、イスパニアの植民地であつたから、ブラジル人は、ポルトガル語を使つて居る外は、皆イスパニア語を用ひて居る、宗教も、もとの、母國に似て、キリスト教の舊教が、大勢力となつて居る、⁽¹⁾住民も、本洲全体で、凡そ四千萬あるが、その三分の一は、ヨーロッパ人の子孫で、イスパニア人、ポルトガル人が多く、インデアノ族は、五百萬位である。

本洲の西部を縦貫せる、アンデス山脈は、北は、パナマ地頸から、南は、南端のホーン岬にまで、延び亘つて、延長は、殆ど、千九百里もある、山の高さは、平均すると、恰も、わが國の富士山ほどの高さであるが、二萬二千八百尺の、アコンカグアが、一等、高い峯で、ソラタ、イリマニなどは、二萬一千尺以上、コトバクシ、チンボラソなどが、二萬尺以上で、順次、その次に位し、而

(1)人口
諸統計表
第四参考

アンデス山脈

して、これ等の山は、皆火山である。

アマゾン河
ブラジル國を流れて、大西洋に注ぐ、アマゾン河は、河幅の廣い處は、三里、水量の、多い点からいふと、世界第一で、長さは、千五百里に亘り、河口から、二百里の間は、潮汐を感じ、大船ならば千餘里、小船ならば、アンデス山の麓まで航行し、屬流を合せると、その流域の大きいことは、ヨーロッパの四分の三に等しい、その流域は、セルバス(平谷)といつて、深厚の森林が、幾百里に亘り、蔓草が、その間をぬつて、深く、天日を蔽ひ、禽鳥の類は、こゝに歌ひ、猿猴の屬は、こゝに戯れ、叢裡には、各種の昆虫が、棲息して、啾聲は、遠く、數里の外に聞えて居る。

産物
ブラジルの
咖啡
本洲は、天産物が、非常に夥しいが、まづ、その産額の、多いものを擧ぐると、ブラジルの咖啡である、これは、年産額が、平均

ブラジル

アルヘンチ
ナの羊毛

六十萬噸位で、世界産額の殆ど、五分の三を出たのである。次は、アルヘンチナの羊毛である、この國は、自然の原野がよく、牧羊に適し、氣候も、また、牧羊には、世界無比であるから、羊の繁殖増加は、オーストラリアなどの、遠く、及ばぬ所である、従つて、羊數は、一億三千萬頭に及び、羊毛の輸出は、六千貫以上、この價額が、凡そ、二億三千萬圓に達して居る、これに、羊皮や、羊肉の輸出高を加算すると、實に、莫大な金額になつて居る。

ペルー、チ
レの硝石

チレから、硝石が出る、元來、硝石には、曹達硝石と、加里硝石との二種あつて、皆人工的に、製造せらるゝものを主とするが、チレ、及び、その北のペルーからは、天然硝石を産し、殊に、チレが多くて、一ヶ年の輸出高が、百三十萬噸に及び、なほ、將來、

二百年間の、供給が、出来る位であるとのことである、その用途は、火藥、玻璃器、硝子器などを製するに供せられるから、世の需用も、どん／＼、多くなつて來て居る。

ペルーの鳥
糞

ペルーから、鳥糞が出る、これは、十數世の間、無數の海鳥が、海岸や、島の上に憩ひて、分泌した糞が、歲月を経て堆積し、他の物質と化合し、一種礦物の形狀をして居るものである、濫掘の結果、今は、その産額を減じたが、なほ、年額、凡そ十萬噸許もあつて、この國の、重要輸出品となつて居る、その用途は、磷酸を加味して、人造肥料を得るに供するものなれば、用途の甚だ廣いものである。

パナマ帽

それから、今、一つ、本大陸の特製品で、わが國民に、よく、知れ渡つて居るものは、名高い、パナマ帽である、これは、パナマを

ペルー

經て、諸方に分配されるから、かくいふのであるが、その實は、エクアドルの海岸地方が、製造の本場で、それより、ペルー北部の、海岸地方からも、出来る、その原料は、トキラといふ、一種の植物の稗で、その製作は、専ら、インギアン人の、手工にまつのである、その方法は、るりぬいた稗を、拇指の爪で、適當な、細さに、割り、夜半から、午前七時までの間で、空氣の濕潤なる時に、恰も、わが國で、籠屋が、箆を編む如く、帽子の頂上から、漸次圓形に、編み終るのである、その仕事をするには、忍耐と、精微なる視力と、非常なる熟練とを要し、その上に、流行を趁はむがために、職工を督勵せねばならぬから、その辛勞は、尋常一様ではない、従つて、精巧なるものは、その價は、非常に、高い。

本大陸は、大いに、鑛産に富み、アンデス山脈の一帶には、金、

南アメリカの金

銀、銅等の産出がある、わが、明治三十六年度の調によると、金は、コロンビアに、五百四十五萬圓、ブラジルに、四百五十五萬圓、フランス領、グイヤナに、四百二十三萬圓の産出がある、銀は、ボリビアに、凡そ一千萬圓の産出があつて、世界の第四位を占め、それについて、チレに、約三百萬圓、ペルーに、二百萬圓、コロンビアに、百五十萬圓許の産出がある、また、金剛石が、ブラジルから出る。

(イ)諸統計表
第六參考

金剛石

本洲には、また、動物で、象に似た貘、獅子に似たヒョウ、虎に似たジャギアル、駱駝に似た駱馬と、羊駝といふ奇獸がある、中にも、羊駝の毛は、長くて、光澤があるから、立派な織物に製するので、わが國でも、俗に「アルパカ」といつて、洋服に仕立て、多くの人が、着て居る。

動物

アルパカ

ペルー

わが國とペ
ルーとの關
係

本洲にて、ペルーは、明治六年に、わが國と、通商條約を結んだ國であるから、わが國民の、出稼したのも古く、現時、その數、千五百人以上もあるが、その他の、三條約國は、國交が、新らしいから、移住民も、今に、少ない、わけて、ブラジルの如きは、わが國民の移住を歓迎して居るが、彼我、交通の便が悪いから、なほ、移民が、増殖せぬ、されど、彼の、いはゆる、パナマ運河が、出來上つた曉には、世界の航路を、一層、短縮することになり、とりわけ、わが國から、南北アメリカへの航路は、餘程、短くなるから、交通が漸次、頻繁となるに疑ひない。

パナマ運河

パナマ運河は、パナマ地頸で、太平洋岸のパナマ港から、カリブ海岸のコロロン港(又アスピンウォール港)までの掘りぬきで、彼のスエズ運河と共に、名高いレセップス氏が、工事監督の

下に、運河開鑿會社を組織して、西曆千八百八十一年から、工事に取りかゝつたが、河流の妨害や、氣候の不良などで、八年の後に、會社が倒産の不幸を見た、されど、パナマ共和國の獨立と共に、この運河は、アメリカ合衆國の手で、掘りぬかるゝことゝなつて居る、その延長は、凡そ四十六哩で、起業者は、音に名高い、アメリカ合衆國のことであるから、この度こそは、必ず、天然にうちかつて、成效を告げるであらうとは、皆人の信する所である。

わが國の東
洋汽船會社

本大陸、太平洋の沿岸地方も、また、わが國との交通は、未だ、よく、發達して居らぬが、わが、東洋汽船會社は、昨三十八年十二月このかた、新たに、航路を開き、横濱から、神戸、門司を経て、香港に行き、それより、ペルーのカラオ港に直航し、南に、チレ

南アメリカに於けるわが國の製品

のイキケ港に航し、再び、カラオに寄港し、順路歸國することとなつて居るが、この航程は、四ヶ月を要する、わが國、製品の、この大陸の市場に上るものは、絹布、屏風、漆器、陶磁器、花菴などがある、これ等は、皆支那人の手から、輸入されるのであるが、日露戦役このかた、市場は、一般に、わが製品を歓迎する傾向を生じたのであるから、將來は、わが國の、一大華客たるに至るであらうと思はれる。

本洲高地の都會

本洲の都會で、アンデス山系中にあるものは、土地高くて、わが國人などは、到底、想像の及ばぬ處に、都市をこしらへて居る、中にも、九千尺以上の高地には、コロンビアのボゴタ、エクスアドルのキト、ボリビアのスクレ等があり、ボリビアのラパスは、一萬二千尺、同ポトシは、一萬三千二百尺で、ペルー

のオロヤの如きは、附近から、銀が出るから、地高一萬五千五百尺あるにも拘はらず、立派な都會を造つて、リマとの間に鐵道も、出來て居る。

補修用
受驗用

外國地理終

諸統計表

第一 アジア洲各國面積人口表

國	名	面	積	人	口	一
朝	鮮	積	(方里)	口	(單位萬人)	方里人口
支那本部	支那本部	二五五、〇〇〇	四〇、七三四	一、二〇〇	一、五九七	九二三
滿洲	滿洲	六一、〇〇〇	八五〇		一三九	
新疆	新疆	九二、〇〇〇	一二〇		一三	
蒙古	蒙古	二二八、〇〇〇	二五八		一二	
西藏	西藏	七〇、〇〇〇	六四三		五四	
青海	青海	五〇、〇〇〇	四二、六〇五		五六四	
計	計	七五六、〇〇〇				

諸統計表

諸統計表

シ	ベ	リ	ア	ロ	シ	ア	オ	方地			イ	ン
								ペ	ア	ベ		
八〇六、〇〇〇	二五八、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一、〇九四、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	三六、〇〇〇	二二、〇〇〇	一六三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一一四、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
五七三	七七二	九二五	二、二七〇	一、七五五	九五〇	四〇〇	一〇五	一、四五五	二二、一三〇	六、二五〇	四〇〇	四〇〇
三〇七	三〇八	一二	一六三	一二五	九〇	一一一	四七八	八九	一、三八三	五四八	八六〇	四四〇

諸統計表

マ	計	島半那支トソイ					ド
		領那	支	ソ	支	ト	
二六、七〇〇	一四四、八六七	四二、七〇〇	六、〇〇〇	三、七〇〇	九、〇〇〇	二四、〇〇〇	二九〇、四〇五
三〇〇	四、二九四	一、八三四	二五〇	二九七	六一三	七六四	二九、二三二
一一二	二九六	四二七	二五〇	八〇三	六八一	三二八	一、〇〇七
							八、三四三
							一、八五三
							三、四一三
							一五四
							二七三
							七

諸統計表

諸島	諸統計表
デンマルク領諸島	二三
オランダ領諸島	七〇
フランス領諸島	一八〇
	三一、
	六、
	四〇、
	一、三四八
	八五七
	二、二二二

八

第四 南アメリカ洲各國面積人口表

國名	面積(方里)	人口(單位)	一方里人口
パナマ	五、三〇〇	三四	七四
コロンビア	四、八〇〇	三八八	八〇八
ベネズエラ	九九、〇〇〇	二三二	二三
イギリス領	一七、三〇〇	二八	一六
オランダ領	七、七〇〇	七	九
フランス領	五、一〇〇	三七	六

第五 世界石油産額

ブラジル	五三六、四〇〇	一、四三三	二九
エクアドル	一九、三〇〇	一二二	六三
ペルー	一一一、〇〇〇	四六一	四一
ボリビア	九五、〇〇〇	一八二	一九
チレ	五一、三〇〇	二七二	五三
パラグアイ	二六、二〇〇	四三	一七
ウルグアイ	一一、〇〇〇	九八	八二
アルゼンチナ	一八九、三〇〇	五〇二	二二

諸統計表

九

諸統計表

國別	明治三十六年	明治三十五年	明治三十四年
アメリカ合衆國	六五、二九九、八六九	五七、六九八、四九六	四五、一〇二、九七六
ロシヤ	四九、一三四、三一七	五二、三五一、〇二九	五五、三五九、五六二
スマトラ、ジャバ、ボルネオ	四、一三六、〇〇〇	三、八〇九、〇〇〇	一、九七五、一五五
オーストリア	三、四〇二、四〇九	二、六九二、四〇四	二、一一三、五〇四
ロマーニア	一、七九六、〇二六	一、三三八、九五五	九一四、〇〇五
インド	一、六三一、六六八	一、〇五一、二八六	九二九、九六六
日本	六二六、六〇〇	七七五、四五〇	七二五、〇〇〇
其他	四六七、五四〇	二三六、〇九五	六四二、五一七
計	一二六、八八二、二八二	一二〇、三五二、七一五	一〇七、七五二、六八五

十

第六 世界銀産價額 (明治三十六年度)

メキシコ	三八、〇七〇、〇〇〇
チリ	一、四〇二、六〇〇

アメリカ合衆國	二九、三三二、〇〇〇	中央アメリカ諸國	一、一四二、七〇〇
オーストラリア	五、二二八、七〇〇	ペルー	九四三、二〇〇
ポリア	四、八四三、六〇〇	オーストリア	八七七、〇〇〇
ドイツ	三、一四四、一〇〇	コロンビア	六〇九、五〇〇
イスパニア	二、二〇九、一〇〇	其他	二、五四六、三〇〇
カナダ	一、七〇〇、八〇〇	計	九二、〇三九、六〇〇

第七 世界主要國石炭産額 (單位千噸)

國別	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年
イギリス	二二五、一八一	二一九、〇四七	二二七、〇九五
アメリカ合衆國	二四〇、七八八	二六一、八七四	二六八、六八八
ドイツ	一〇九、二九〇	一〇八、五三九	一〇七、四三六
フランス	三二、七二二	三一、六三四	二九、五七四

諸統計表

十一

諸統計表

ベルギー	二二、四六三	二二、二一三	二二、七六九
ロシア	一六、一一一	一六、二七〇	...
オーストリア	一一、三六〇	一三、一〇五	...
日本	七、四七一	八、八七五	九、五八九
イギリス	六、一一九	六、六三六	七、四二四
カナダ	四、七六一	五、五六〇	六、八二一
オーストラリア	六、三八五	六、八八四	...

第八 世界主要國輸出入品價額

國名	輸出入品價額	比較	人口分頭額
日本	六二、二一五	一、〇	一三
日	九二、四九七	一四、七	二一九
イギリス	五二、五一五	八、四	九三

諸統計表終

諸統計表

アメリカ合衆國	五一七、二三四	八、三	六八
フランス	三七七、二五八	六、〇	九六
オランダ	三三二、四〇〇	五、二	六〇三
ベルギー	一六六、六四二	二、七	二四九
ロシア	一六一、二一一	三、〇	一一四
オーストリア	一五七、三九九	二、五	三五
日本	八二、二〇五	一、三	二四八

明治四十年三月七日 印刷
明治四十年三月十一日 發行

(定價金三十五錢)

著作者

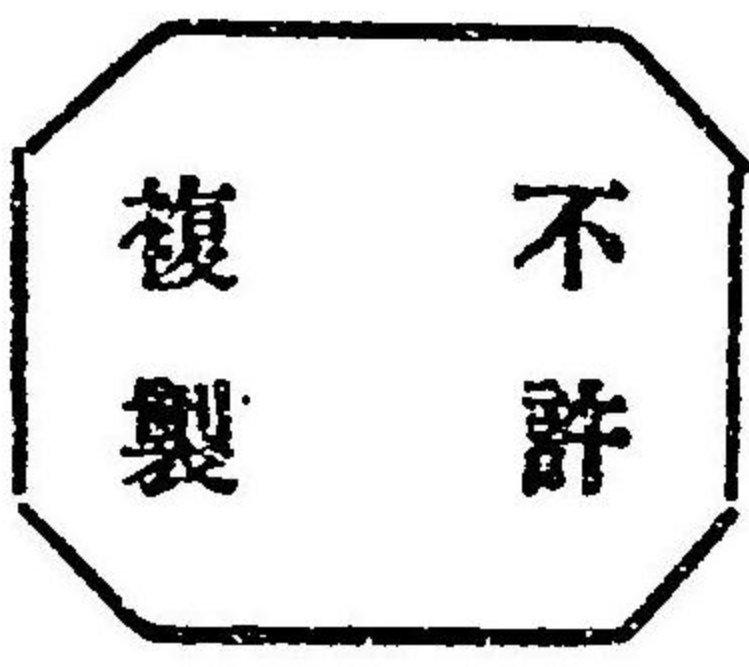
池田鹿之助

印刷者兼
發行者

大阪市東區南久寶寺町四丁目拾九番屋敷
前川善兵衛

發賣者

東京市下谷區徒士町三丁目四拾九番地
合資社 啓成社
代表者 谷川喜三郎



賣捌所

東京市下谷區徒士町三丁目

合資社 啓成社

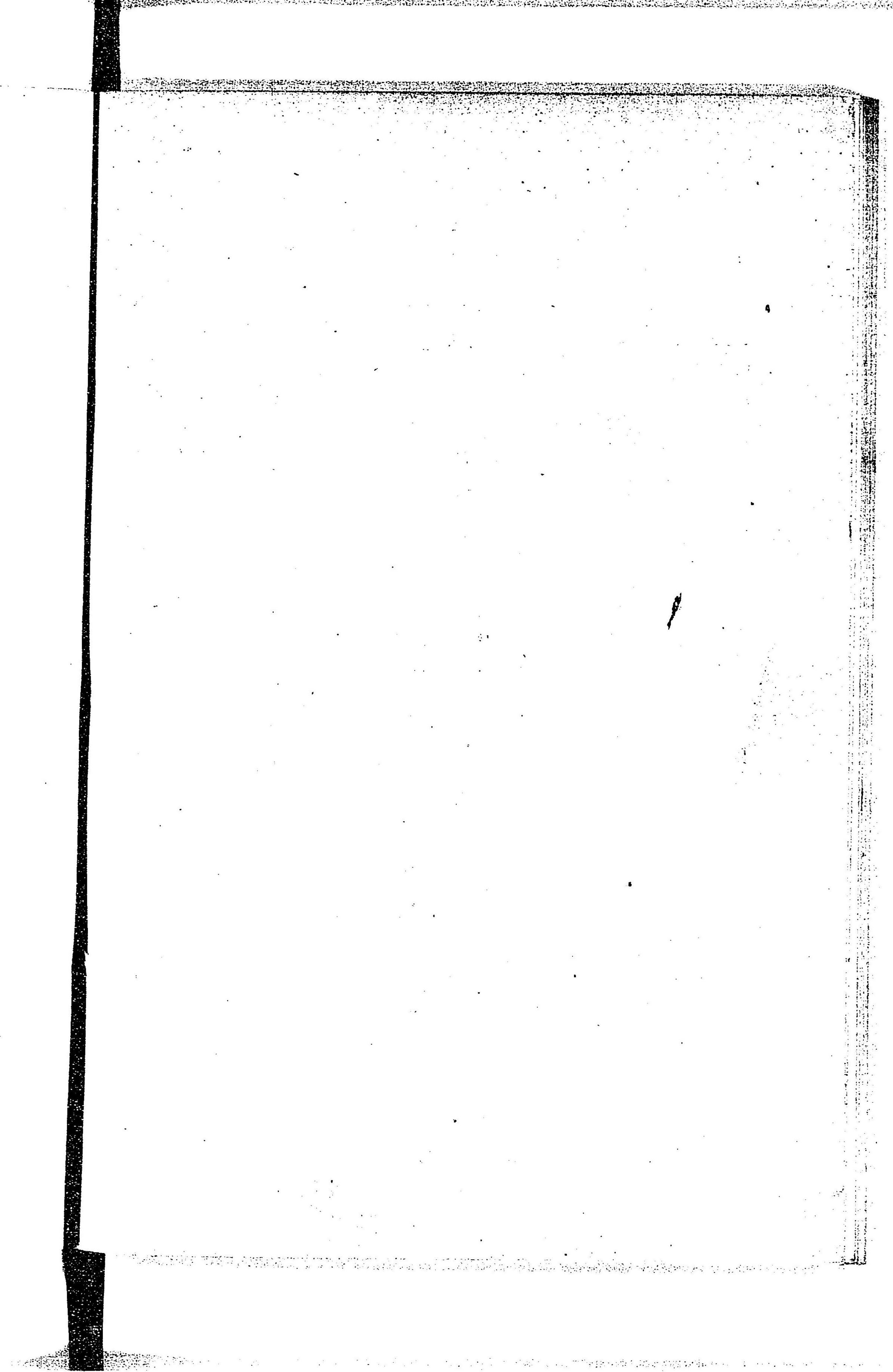
(電話長下谷五八〇)

賣捌所

大阪市東區南久寶寺町四丁目

前

川書店
(電話長東七三八)



252
776



049564-000-5

特20-253

外国地理（補習用受験用）

池田 鹿之助／編

M40

BEM-0256

